

日中友好環境保全センタープロジェクト・フェーズⅢ  
プロジェクト事業完了報告書

平成 18 年 3 月

日本人長期専門家チーム

2006年3月31日

## プロジェクト事業完了報告書

日中友好環境保全センタープロジェクト・フェーズⅢ  
日本専門家チーム

### 1 プロジェクトの成果一覧

別添1-1

### 2 活動実施スケジュール

(フェーズⅢ前期)

別添2-1

(フェーズⅢ後期)

別添2-2(1)(2)

### 3 投入実績

別添3-1~4

### 4 プロジェクトの実施運営上の工夫、教訓

<中国国内における研修実施に係る工夫>

フェーズⅢでは、年間多くの研修、セミナー等を各地で実施したが、その実施経費に関しては全て JICA 予算で負担するのではなく、C/P 機関等の研修実施に関する主体性、積極性を確保するために C/P 機関他参加関係機関にもその経費の一部（参加者の交通費、会議費等）を負担してもらうこととした。一方、JICA 予算では、専門家・講師の旅費、資料作成費等技術協力に直接関わる経費を負担した。

このような経費分担の明確化により経理事務処理も簡素化・効率化され、また、限られた予算でより多くの研修等を実施し、技術移転の効果も高まった。

<PDMに係る教訓>

フェーズⅢは、中国の環境問題の課題にタイムリー且つ柔軟に中国のニーズに応じてきたという特徴がある。R/D 締結時に想定していなかったテーマ（循環型経済など）を重点領域に取り込み、タイムリーな協力を実施することが出来た。また「一般協力」そのものが、さまざまなニーズに柔軟に対応することを

想定して設計された。

しかし、フェーズⅢについては、これらの特徴のため現在採用されているPDMによるプロジェクト運営・管理手法や評価手法では適切に対応できないところがあったのも事実である。実際、中間評価や終了時評価においては、本プロジェクトのようなプログラム協力的な内容のプロジェクトを評価する手法がまだ開発されていないため、あくまでも典型的プロジェクトとしての評価が試みられた。よって、当初活動が明確化されておらず、指標もなかった活動については、評価のために新たに指標を設けるなどの手法でしか評価できなかったが、その適正さには検討の余地があると思われる。

センターのような総合的な機関（政策、情報、実験室、研修教育）のキャパシティ・ディベロップメントとその能力を活かし、中国の環境問題の解決に貢献することを目標としたプロジェクトの活動は総合的協力活動にならざるを得ない。プロジェクトとは、目標と期間を明確にして実施するものであるが、政策が目まぐるしく変化する中国においては、さまざまな政策ニーズに柔軟にスピーディーに対応できるプロジェクトというものが求められてくるであろう。プロジェクトの運営・管理手法としてPDMの改善、専門家の派遣形態や、手続き面を含めて、新たな技術協力のモデルへの模索として検討が必要である。センターでの経験をケーススタディーとして、従来型の技プロを越えた新たな技術協力モデルの模索には意義があり、JICAにとっても検討すべき挑戦的なテーマである。

## 5 PDMの変遷

本プロジェクト・フェーズⅢの活動は、R/Dの合意に基づく、PDM（別添5-1）の枠は維持しつつも、その活動の詳細は変化する中国の環境保全上の重要課題に的確、且つ柔軟に対応するためプロジェクト合同調整委員会の決定等を経て、必要に応じ若干の調整・変更が行なわれた。

すなわち、02年7月及び03年4月の合同調整委員会における決定、SARS問題（03年4月～7月）によるプロジェクト活動の一部見直し、03年6月のセンターの新体制の発足に伴うセンター側の更なるセンター発展に関する構想及び中国政府の新しい政策「循環型経済」への対応のための見直しに関する03年8月の合意により、それぞれプロジェクト活動の若干の変更が行なわれた（別添5-2）。

そして、04年2月に本プロジェクトの中間評価が実施され、「中国における環境問題・ニーズの変遷（循環型経済概念の普及等）及びセンターの新体制が策定した開放発展プラン（案）やそれらの動きに対応するため～領域を再編すること」が提言され、また、「合同調整委員会において日中双方で議論のうえ、

確定すべきである。」としつつ、後期 PDM（案）も提言された。

中間評価における提言を受け、04年6月の合同調整委員会において PDM の変更（別添5-3）が行なわれた。

## 6 合同調整委員会開催記録

別添6

## 2005年度

研修セミナー名	開催時期	場所	主催者等	受講者数
循環型経済に関する講演会	2005年4月8日	寧夏回族自治区石嘴山市	石嘴山市	400人
循環経済と生態都市建設国際学術セミナー	2005年5月13日	河北省保定市	河北大学	300人
循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修①	2005年5月15日～25日	北京市(センター)	センター	55人
企業環境保護監督員制度事前研修会①	2005年6月3日	北京市(SEPA)	SEPA・センター	40人
烟台師範学院での講演会	2005年6月8日	山東省烟台市	烟台市・烟台師範学院	300人
烟台大学での講演会	2005年6月9日	山東省烟台市	烟台市・烟台大学	500人
地方環保局長就任研修①	2005年6月13日～25日	北京市(センター)	SEPA・センター	60人
中国政府グリーン購入国際セミナー	2005年6月28日29日	北京市(センター)	SEPA・センター	200人
循環経済訪日研修事前研修会①	2005年7月2日	北京市(センター)	センター	10人
ダイオキシン分析技術セミナー	2005年7月6日～8日	北京市(センター)	センター	50人
地方環保局長就任研修②	2005年7月7日～21日	河北省秦皇島市	SEPA・センター	94人
日中協力電力企業環境保護監督員制度研修	2005年7月24日～28日	江蘇省鎮江市	SEPA・センター	80人
循環経済訪日研修事前研修会②	2005年8月19日	北京市(センター)	センター	10人
CDMプロジェクト認証及びDOEに関する検討会	2005年8月22日～24日	北京市(センター)	センター	15人
循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修①	2005年9月1日～11日	北京市(センター)	センター	50人
企業環境保護監督員制度事前研修会②	2005年10月23日～26日	広東省東莞市	SEPA・センター	83人
地方環保局長就任研修④	2005年10月17日～29日	北京市(センター)	SEPA・センター	60人
第三国研修・アジア地域環境保護能力向上	2005年11月13日～27日	北京市(センター)、江蘇省蘇州市	JICA・センター	19人
地方環保局長就任研修⑤(西部支援共催)	2005年11月12日～28日	江西省南昌市	SEPA・センター	50人
POPs分析技術制度管理技術研修	2005年12月12日～14日	北京市(センター)	センター	66人
EIAにおける公衆参加実施細則普及研修	2006年2月14日～15日	天津市	SEPA・SEPA環境評価工程中心	70人
循環経済専門家検討会	2006年2月20日	北京市(センター)	センター	20人
循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修③	2006年2月20日～26日	福建省アモイ市	センター	60人
環境保護法の改正検討会	2006年2月26日～28日	黒龍江省ハルビン市	センター	32人
日中友好環境保全センター総括セミナー	2006年3月7日	北京市(センター)	センター	86人
			計	2710人
総計				7555人

●フェーズⅢ 専門家派遣一覧表

長期専門家

氏名	指導科目	所属	派遣期間
千原大海	チーフアドバイザー	専門員	2002.5.29-2004.3.31
鈴木啓史	業務調整員	JICA	2002.4.8-2002.10.31
澤田博美	業務調整員	JICA	2002.10.1-2004.9.30
加藤義重	環境管理	なし	2002.4.1-2003.3.31
山下俊郎	大気汚染	北九州市	2002.4.1-2004.3.31
向井博之	有害化学物質	新潟県	2002.4.9-2004.4.8
高橋元喜	一般協力課題支援	JICA ジュニア専門員	2003.4.2-2006.3.31
小柳秀明	チーフアドバイザー	環境省	2004.4.1-2006.3.31
皆川新一	政策制度支援	新潟県	2004.4.1-2006.3.31
貴戸東	技術移転支援	北九州市	2004.5.25-2006.3.31
位坂和隆	業務調整員	なし	2004.12.19-2006.3.31
須藤和男	協力調整アドバイザー	JICA	2005.3.28-2006.3.31

短期専門家

氏名	指導科目	所属	派遣期間
西川雅高	黄砂分析・発生源解析	国立環境研究所	2002.10.7-10.23
岩本眞二	粒子状物質の採取・分析・発生源解析	福岡県保健環境研究所	2002.11.4-11.17
鶴崎克也	公害防止管理者制度	産業環境管理協会	2002.11.24-11.30
福崎紀夫	酸性雨採取・分析・解析	酸性雨研究センター	2002.12.3-12.15
森下研	簡易 ISO14000	エコマネジメント研究所	2003.1.20-1.24
杉本伸夫	黄砂レーザーライダー解析	国立環境研究所	2003.2.12-2.27
川田邦明	内分泌攪乱物質測定	新潟県保健環境科学研究所	2003.2.26-3.2
伊藤裕康	環境中ダイオキシン	国立環境研究所	2003.3.18-3.22
吉田昌生	環境ビデオ教材企画・制作	甲南女子大	2003.3.19-3.31

杉本伸夫	レーザーライダー操作指導	国立環境研究所	2003.9.7-9.27
福嶋実	環境中 POPs の測定技術指導	大阪市立環境科学研究所	2003.11.23-11.28
一之瀬俊明	西部生態環境情報技術指導	国立環境研究所	2003.11.23-11.26
下鳥稔	酸性雨モニタリング技術指導	酸性雨研究センター	2003.12.13-12.20
染野憲治	循環型経済モデル研究支援	環境省	2004.1.10-1.17
入江隆司	循環型経済モデル研究支援	北九州市環境局	2004.1.10-1.17
日下晋一	ダイオキシン測定技術指導	関東科学株式会社	2004.2.4-2.7
下山優	ダイオキシン測定技術指導	(株)エス・エイチ・シー	2004.2.4-2.7
池田耕一	中国室内環境研究	国立保健医療科学院	2004.2.9-2.14
溝畑朗	粒子状物質の発生源解析	大阪府立先端科学研究所	2004.2.10-2.14
西川雅高	黄砂研究の総括的指導	国立環境研究所	2004.2.22-3.11
松崎直樹	企業環境保護監督員制度	産業環境管理協会	2004.8.25-9.1
中田守	企業環境保護監督員制度	JFE スティール(株)	2004.8.26-8.28
渡邊廣昭	企業環境保護監督員制度	中部電力(株)	2004.8.26-8.28
齋藤良太	EIA 法公衆参加	埼玉県	2004.8.29-9.3
久保昌利	EIA 法公衆参加	(株)長大	2004.8.29-9.3
西川雅高	都市大気中 SPM 標準物質作製指導	国立環境研究所	2004.10.11-11.6
松井利恭	酸性雨モニタリング技術指導	酸性雨研究センター	2004.11.22-11.29
杉本伸夫	レーザーライダー操作指導	国立環境研究所	2004.12.1-12.14
平山義康	中国環境保護法の修正に関する研究	大東文化大学	2004.12.12-12.17
森口祐一	循環経済構築のための技術移転	国立環境研究所	2005.1.9-1.12
田中充	EIA 法公衆参加	法政大学	2005.2.27-3.5
齋藤良太	EIA 法公衆参加	埼玉県	2005.2.27-3.5
久保昌利	EIA 法公衆参加	(株)長大	2005.2.27-3.5
塩崎卓哉	POPs に関する技術移転	(財)日本環境衛生センター	2005.3.4-3.12
早狩進	粒子状物質の発生源解析	青森県環境保健センタ	2005.3.3-3.12

		—	
原田和幸	グリーン購入	環境省	2005.6.26-6.30
田口整司	グリーン購入	(財)日本環境協会	2005.6.26-6.30
塩崎卓哉	ダイオキシン分析技術	(財)日本環境衛生センター	2005.7.3-7.13
原口清史	固体廃棄物再資源化研究	北九州市	2005.7.17-7.23
中山哲男	企業環境保護監督員制度	無	2005.7.25-7.30
堀井祐三	企業環境保護監督員制度	東京電力(株)	2005.7.25-7.30
田森行男	CDM 技術支援	(財)日本品質保証機構	2005.8.21-8.25
杉本伸夫	黄砂研究の総括的指導	国立環境研究所	2005.8.21-8.31
小島道一	資源循環の越境移動	アジア経済研究所	2005.9.4-9.11
山本良一	企業環境保護監督員制度	東京大学生産技術研究所	2005.10.22-10.25
大澤純二	企業環境保護監督員制度	王子製紙(株)	2005.10.24-10.27
松井一郎	黄砂研究の総括的指導	国立環境研究所	2005.11.15-11.26
塩崎卓哉	POPs 分析技術	(財)日本環境衛生センター	2005.12.7-12.17
中野武	POPs 分析技術	兵庫県立健康環境科学研究センター	2005.12.11-12.14
齋藤良太	EIA 法公衆参加	埼玉県	2006.2.12-2.17
久保昌利	EIA 法公衆参加	(株)長大	2006.2.12-2.17
森口祐一	循環経済制度の枠組み等の研究	国立環境研究所	2006.2.19-2.21
篠原弘志	循環経済制度の枠組み等の研究	北九州市	2006.2.23-2.25
寺園淳	循環経済制度の枠組み等の研究	国立環境研究所	2006.2.23-2.25
西川雅高	プロジェクト総括セミナー	国立環境研究所	2006.2.26-3.11
塩崎卓哉	ダイオキシン・POPs分析技術移転	(財)日本環境衛生センター	2006.3.2-3.5
松村治夫	固体廃棄物再資源化研究の推進	(財)日本産業廃棄物処理振興センター	2006.3.5-3.11
松本光弘	粒子状物質の発生源分析	奈良県保健環境研究センター	2006.3.12-3.18



●JICA 技術協力プロジェクト 日中友好環境保全センターフェーズⅢ 訪日研修員  
派遣一覧表

氏名	所属先・肩書	研修科目	主な受入先	派遣期間
陳燕平	日中友好環境保全センター 副主任	簡易ISOの学習と 日本のエコラベルの学習及び 実習	東京都庁、京都府庁 エコマネジメント研究 所	2003.3.9-3.21
董亮	日中友好環境保全センター 標準物質研究所	環境中の内分泌攪乱物質	国立環境研究所	2003.3.30-6.28
張波	日中友好環境保全センター 環境情報部	環境部門での GIS 及び RS に関 する 応用技術の研究	国立環境研究所	2003.3.30-6.28
李玉武	日中友好環境保全センター 開放実験室	大気中の粒子状物質問題研究	福岡県	2003.9.15-11.15
周麗	日中友好環境保全センター 開放実験室	残留性有機汚染物質 (POPs)	愛媛大学	2004.1.19-4.18
周国梅	日中友好環境保全センター 環境戦略及び政策研究部	循環型経済モデル研究	環境省、北九州市	2004.3.8-4.9
胡華龍	日中友好環境保全センター 開放実験室	循環型経済モデル研究	環境省、北九州市	2004.3.8-4.9
朱琦	日中友好環境保全センター 環境情報部	西部生態環境情報の研究	国立環境研究所	2004.3.31-9.25
孫自傑	日中友好環境保全センター 標準物質研究所	顆粒物成分分析 (標準物質研 究)	国立環境研究所	2004.3.31-6.29
夏光	日中友好環境保全センター 環境戦略及び政策研究部・ 主任	アジア知識創造セミナー	TIC	2004.11.15-11.24
姜華	国家環境保護総局 環境工程評価センター	環境影響評価手続きにおける 公衆参加の方法、手続き及び 意思決定	環境省他	2004.12.1-12.10
趙欣豊	国家環境保護総局 環境工程評価センター	環境影響評価手続きにおける 公衆参加の方法、手続き及び 意思決定	環境省他	2004.12.1-12.10
羅毅	国家環境保護総局 科学技術標準司・副司長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会 (KITA) 他	2005.1.10-1.26

魏曉琳	国家環境保護總局 科学技術標準司・主任科員	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.1.10-1.26
許世国	貴陽市 循環經濟辦公室・副主任	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.1.10-1.26
段寧	中国環境科学研究院 副院長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.1.10-1.26
付澤強	中国環境科学研究院 副研究員	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.1.10-2.5
吳玉萍	日中友好環境保全センター 環境戰略及び政策研究部	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.1.10-2.5
李捷	天津經濟技術開發区環保局 高級工程師	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.1.10-2.5
曹俊	蘇州高新区環保局 局長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.1.10-2.5
文毅	遼寧省環保局 副局長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.1.10-2.5
張磊	国家環境保護總局 国際合作司・処長	日中環境協力の推進	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.2.6-2.11
邵丁丁	日中友好環境保全センター 開放實驗室	POPs 測定技術の研究	兵庫県立健康環境科 学研究センター	2005.2.20-4.1
杜兵	日中友好環境保全センター 開放實驗室	ダイオキシン測定技術の研究	社会環境管理センター	2005.3.24-6.23
張聯	国家環境保護總局 人事司・副司長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13
王夙理	国家環境保護總局 法規司・副司長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13
劉鴻志	国家環境保護總局 汚染制御司・副司長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13
紀悦毅	国家環境保護總局 服務中心・主任	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13
郭啓民	国家環境保護總局 汚染制御司総合処・調研員	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13
辛志偉	天津市環境保護局 総工程師	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13

石玉山	内モンゴル自治区環境保護局 副局長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13
程立峰	黒龍江省環境保護局 副局長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13
趙英民	国家環境保護総局 科学技術標準司・副司長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13
孫佑海	全国人民代表大会 環境資源委員会法制室・主任	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.7.4-7.13
原慶丹	国家環境保護総局 政策法規司・副処長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
邱琦	日中友好環境保全センター 高級工程師	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
喬琦	国家クリーナープロダクション センター研究員	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
繆旭波	南京環境科学研究所 研究員	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
王承武	江蘇省蘇州市環境保護局 副局長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
李愛軍	遼寧省盤錦市環境保護局 副局長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
王瑞	山東省烟台市環境保護局 副局長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
鄭邦泉	広東省汕頭市潮陽区 環境保護局工程師	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
李徳成	山東省青島市環境保護局 副処長	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
張高勇	新疆ウイグル自治区石河子市 環境保護局局长	日本の循環社会の現状と課題	(財)北九州国際技術 協力協会(KITA)他	2005.8.21-9.17
任玥	日中友好環境保全センター 開放実験室	ダイオキシン測定技術の研究	国土環境(株)環境創 造研修所	2005.10.19- 2006.1.21
張琦	日中友好環境保全センター 国際合作処副処長	日中環境協力の促進	(社)海外環境協力 センター	2005.12.18- 2005.12.23

2004年4月の活動一覧

- 1日 【長 専】小柳秀明専門家(チーフアドバイザー)、皆川新一専門家(政策制度支援領域担当)赴任
- 5日 【打合せ】センター幹部と「フェーズⅢ後半2年間の協力方針について」(全員)
- 6日 【打合せ】SEPA 陳善榮環境監察局副局長らと「企業環境保護監督員制度推進について」(於 SEPA) (小柳、皆川)  
【会議等】「環境ホルモン研究発表評価会」参加(於 JICA 事務所) (小柳、皆川、向井)
- 7日 【来 訪】日本大使館染野憲治一等書記官着任挨拶(全員)  
【打合せ】環境監測総站万本太総站長と「黄砂調査研究の今後の進め方について」(小柳)  
【打合せ】中国科学院生態研究中心と「今年度の協力の進め方について」(全員)
- 8日 【長 専】向井博之専門家(有害化学物質担当)帰任  
【出張】江蘇省蘇州市「中日環境材料・循環産業と環境経営セミナー」参加、～11日(小柳)
- 13日 【打合せ】科学技術部へ「就任挨拶」(小柳、皆川)
- 16日 【来 訪】アフアス認証センター森本誠悟認証本部長ら2名(小柳)
- 20日 【会議等】「日中水フォーラム」参加(於北京市内)、～22日(小柳、皆川)
- 21日 【打合せ】SEPA へ「就任挨拶」(小柳、皆川)
- 22日 【来 訪】環境省安藤茂水環境管理課長(小柳)
- 26日 【会議等】「2004年度第1回合同調整委員会」開催(於 JICA 事務所) (全員)
- 27日 【会議等】「山東省グリーン産業博覧会等招聘会合」出席(於北京市内) (小柳、皆川、高橋)
- 28日 【来 訪】広島大学松岡俊二教授(小柳)

2004年5月の活動一覧

- 10日 【来訪】国立環境研究所西川雅高室長(国内支援委員)(小柳、高橋、沢田)  
【来訪】日本環境アセスメント協会(JEAS)二宮章会長ら16名(小柳、森)
- 12日 【出張】貴州省貴陽市/安順市「日中協力貴陽ゼロエミッションセミナー」出席等、～16日(小柳)
- 13日 【来訪】環境省田中聡志環境協力室長(沢田)
- 14日 【来訪】神鋼リサーチ上條綱雄部長ら2名(高橋)
- 16日 【打合せ】国立環境研究所合志陽一理事長、中国科学院副院長らと「二国間の研究協力について」(小柳)
- 17日 【来訪】京都大学森品寿助教授ら2名(小柳)
- 18日 【会議等】「ISO14020 環境ラベル標準に関する国際セミナー」出席(於センター)(小柳、皆川)
- 19日 【来訪】島津製作所椎橋利康北京代表、日本アジア交流協会中国代表大久保大輔様ら4名(小柳)
- 20日 【会議等】「中国環境ラベル10周年式典」出席(於北京市内)(小柳、皆川)  
【打合せ】日本環境協会田口整司エコマーク事務局長、産業環境管理協会地曳英夫エコリーフ事業センター所長らと「環境ラベル分野での日中協力について」(於センター)(小柳)
- 21日 【会議等】「地方環境保護局長就任研修」講義(於センター)(小柳)
- 23日 【来訪】国立環境研究所森田昌敏統括研究官ら2名(沢田)  
【出張】吉林省長春市/通化市/集安市「企業環境保護監督員制度現地調査」、～27日(皆川、小柳)
- 24日 【来訪】神鋼リサーチ上條綱雄部長(高橋)
- 25日 【長専】貴戸東専門家(技術移転支援領域担当)赴任
- 27日 【来訪】JICA 鉄鋼環境保護プロジェクト運営指導調査団昇本潔団長ら4名(高橋、沢田)
- 28日 【会議等】「環境著名人報告会」(於センター)(小柳、沢田)  
【出張】雲南省昆明市「環境保護法改正セミナー」参加、～31日(小柳)

2004年6月の活動一覧

- 2日 【打合せ】SEPA 科技司/国際司/自然保護生態司と「循環経済、酸性雨対策等について」(於 SEPA) (小柳、皆川)  
【来訪】同和鉱業岩島和男上海代表処首席代表ら4名(小柳、貴戸)
- 3日 【打合せ】SEPA 計画財務司と「黄砂酸性雨に係る協力について」(小柳)
- 4日 【打合せ】中国建築工業計画研究院張士秀副院長ら3名と「建材リサイクル及び循環型経済について」(於センター) (小柳、皆川、高橋)
- 6日 【出張】陝西省西安市「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」、～7日(小柳)  
【会議等】「国土環境株式会社合弁会社設立式典」参加(於北京市内)(沢田)
- 7日 【講師】大泉毅講師(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術)着任、～12日まで
- 8日 【出張】陝西省西安市「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」～11日(高橋)
- 10日 【会議等】「国内支援委員会とのTV会議」(於 JICA 事務所)(全員)
- 14日 【来訪】山東省環境保護对外合作中心王偉主任ら2名(小柳、高橋)
- 15日 【出張】陝西省西安市「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」～17日(小柳)
- 18日 【打合せ】北京市省エネ環境保護センター李紅副主任ら3名と「北京市における循環型経済の推進について」(於センター) (小柳、皆川)  
【打合せ】貴陽市環境保護局許世国副局長と「貴陽市における循環経済都市づくりについて」(於センター) (小柳)
- 21日 【打合せ】王子製紙(株)梶田淳中国事業推進本部副本部長らと「企業環境保護監督員制度研修への協力について」(小柳、皆川)
- 22日 【来訪】清華大学本多俊一バーゼル条約事務局担当(小柳)
- 24日 【会議等】「中国における POPs 殺虫剤の削減と段階的廃止の戦略に関する国際会議」参加(貴戸)
- 25日 【会議等】「2004年度第2回合同調整委員会」開催(於センター)(全員)
- 29日 【出張】貴州省貴陽市「環境モデル都市構想の推進について」～7月1日(小柳)

2004年7月の活動一覧

- 1日 【会議等】「ODA タスクフォース環境分科会」出席、(於 JICA 事務所) (小柳、貴戸、皆川、高橋)
- 2日 【来訪】国際環境技術移転研究センター(ICETT)小林康浩部長ら2名(小柳、高橋)
- 4日 【出張】河北省秦皇島市「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」他～5日(小柳)
- 5日 【会議等】「地方環境保護局長就任研修」講義(於秦皇島市)(小柳)  
【講師】渡辺康隆講師(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術)着任、～10日まで
- 6日 【出張】河北省秦皇島市「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」～7日(高橋)  
【来訪】日本電気工業会斉藤潔環境部主任ら5名(小柳)  
【打合せ】国際協力銀行(JBIC)北京代表処小中鐵雄副所長らと「モデル都市での連携の件」(小柳)
- 7日 【打合せ】SEPA 科学技術標準司羅毅副司長らと「循環経済研修について」(於センター)(小柳、皆川、沢田)  
【打合せ】新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)金坂順一郎主任らと「POPsセミナーについて」(於センター)(小柳、貴戸、皆川)  
【打合せ】広島大学松岡俊二教授らと「COE フォーラム開催について」(於センター)(小柳)  
【会議等】「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」講義(於秦皇島市)(高橋)
- 8日 【会議等】「残留性有機汚染物質(POPs)対策技術に係る日中共同セミナー」後援、パネルディスカッション等参加、～9日(小柳、貴戸、皆川)
- 9日 【会議等】「SEPA/KOREA 中小企業管理ワークショップ」講義(於センター)(皆川)  
【来訪】参議院 ODA 視察団事前調査団(小柳)
- 11日 【調査団】運営指導調査団(今井千郎国内支援委員)「第三国研修プログラムについて」(高橋ら)  
【調査団】運営指導調査団(伊藤裕康/向井博之国内支援委員)「ダイオキシン分析実験室の建設指導」(貴戸ら)  
【出張】貴州省貴陽市「参議院 ODA 視察団事前調査団のモデル都市事業視察随行動説明」～13日(小柳)
- 12日 【来訪】日本生態村協会長濱直会長ら6名(高橋、沢田)  
【来訪】金沢大学早川和一助教授ら3名、(貴戸)
- 14日 【打合せ】中国科学院生態研究中心と「日中環境化学連合シンポジウムの開催について」(於生態研究中心)(小柳、貴戸)
- 15日 【来訪】ミーウェルズ曲婉琴編集長(沢田)  
【打合せ】SEPA 国際合作司らと「2004年度国別特設公害防止管理者制度研修の進め方について」(於 SEPA)(小柳、皆川)
- 18日 【出張】吉林省吉林市「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」～19日(小柳)
- 19日 【会議等】「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」講義(於吉林市)(小柳)
- 20日 【来訪】加藤登紀子 UNEP 親善大使、UNEP 地球環境センター小川真砂子部長、環境省池田幸士環境協力室室長補佐ら6名(小柳、皆川、沢田)

- 22日 【来訪】2004年度新規派遣青年海外協力隊員ら9名(小柳、沢田)  
【会議等】「加藤登紀子 UNEP 親善大使環境音楽会」(於センター)(小柳、沢田)
- 23日 【出張】貴州省貴陽市「加藤登紀子 UNEP 親善大使貴陽環境モデル都市視察随行説明」～26日(小柳)
- 29日 【会議等】「北東アジアにおける砂塵嵐(黄砂)防止等に係る投資戦略に関する国際ワークショップ(ADB-GEF)」出席(於北京市内)～30日(小柳、貴戸)



2004年8月の活動一覧

- 5日 【会議等】「日中産業廃棄物処理対策技術交流セミナー」出席(於センター)(小柳、貴戸)
- 9日 【来訪】日本環境技術協会(JETA)辻川常務委員ら2名(小柳)  
【打合せ】国際協力銀行(JBIC)北京代表処小中鐵雄副所長らと「参議院 ODA 視察団への対応について」(於北京市内)(小柳)
- 10日 【来訪】JICA 教師海外派遣団 13名(貴戸、沢田)
- 11日 【打合せ】日本大使館渥美千尋公使らと「参議院 ODA 視察団への対応について」(於日本大使館)(小柳)
- 12日 【出張】内蒙古自治区呼和浩特市/呼倫貝爾市他「内蒙古自治区湿原調査」～20日(小柳、貴戸)  
【来訪】JICA 中国事務所木村信雄所長、国武大紀所員(沢田)
- 16日 【来訪】新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)志村和俊中国等担当主任(沢田)  
【打合せ】貴陽市大気汚染対策計画調査団と「調査報告書の概要について」(於 JICA 事務所)(小柳)
- 17日 【来訪】京都大学北野尚宏助教授(小柳)
- 18日 【来訪】JICA インターン生受入(名古屋大学大学院生劉超)～11月27日まで  
【来訪】環境省田中聡志環境協力室長(小柳)
- 19日 【来訪】参議院 ODA 視察団(全員)  
【出張】貴州省貴陽市/安順市「参議院 ODA 視察団視察随同行説明」～22日(小柳)
- 23日 【来訪】目黒学院飯野泰男教授、修学旅行生ら20名(沢田)  
【会議等】「第1回日中協力企業環境保護監督員制度研修」開催、～28日
- 24日 【出張】貴州省貴陽市「貴陽大気汚染対策計画調査総括セミナー」参加、～27日(孟ナショナルスタッフ)
- 25日 【短専】松崎直樹短期専門家(企業環境保護監督員制度)着任、～9月1日まで  
【来訪】環境省小池百合子環境大臣、松本省蔵地球環境審議官ら7名(小柳、沢田)
- 26日 【来訪】環境省荒井真一環境保全対策課長(小柳)  
【短専】中田守短期専門家(企業環境保護監督員制度)着任、～28日まで  
【短専】渡辺廣昭短期専門家(企業環境保護監督員制度)着任、～28日まで
- 27日 【来訪】JICA 地球環境部岩崎英二チーム長、伊藤民平職員、(小柳、沢田)
- 29日 【出張】江蘇省鎮江市「企業環境保護監督員制度現地調査」、～31日(小柳、皆川、松崎)  
【短専】齋藤良太短期専門家(EIA 法公衆参加)着任、～9月3日まで  
【短専】久保昌利短期専門家(EIA 法公衆参加)着任、～9月3日まで

30日 【会議等】「環境影響評価法における公衆参加シンポジウム」参加、講義、～31日(森、齋藤、久保)

2004年9月の活動一覧

- 1日 【打合せ】太平洋セメント(株)安田浩事業推進部長らと「中国における廃棄物のリサイクル状況について」(於センター)(小柳、貴戸)
- 7日 【来訪】JICA 畠中篤副理事長ら2名(全員)  
【来訪】東京大学大学院生ら3名(沢田)  
【出張】新疆ウイグル自治区ウルムチ市/哈密市「地方環境保護局長就任研修・西部循環経済セミナー出席等」～9日(小柳)
- 8日 【会議等】「地方環境保護局長就任研修」開催(於ウルムチ市)～26日まで  
【会議等】「西部循環経済セミナー」開催・講義等(於ウルムチ市)(小柳)
- 13日 【来訪】緑の地球ネットワーク(GEN)高見邦雄事務局長ら(全員)  
【来訪】千葉大学阿部清司教授ら13名(貴戸、沢田)
- 14日 【来訪】環境省瀬川恵子環境保全対策課課長補佐(小柳、貴戸、皆川)
- 15日 【打合せ】SEPA 国際合作司環境監察局と「酸性雨、国別特設研修、企業環境保護監督員制度の試行について」(於SEPA)(小柳、皆川)  
【出張】山東省青島市「山東省生態省建設高層フォーラム出席等」～18日(小柳)
- 16日 【会議等】「青島大学人口、資源及び環境経済研究所」での講演(小柳)  
【会議等】「北東アジアにおける砂塵嵐(黄砂)防止等に係る投資戦略に関する国際ワークショップ(ADB-GEF)」参加(貴戸)
- 17日 【会議等】「山東省生態省建設高層フォーラム」講演(於青島市)(小柳)  
【来訪】日本建築物衛生環境訪中団目黒克己団長ら7名(高橋)
- 20日 【来訪】(財)自治体国際化協会地方公務員研修団望月時男団長ら10名(小柳)
- 23日 【来訪】広島大学松岡俊二教授ら2名(小柳)
- 27日 【会議等】「国家外国専門家局主催外国専門家招待会」参加(於人民大会堂)(全員)
- 28日 【来訪】名古屋大学井村秀文教授、環境省田中聡志環境協力室長(小柳)  
【来訪】京都大学植田和弘教授ら2名(小柳)
- 29日 【打合せ】国立環境研究所富浦梓監事、飯島孝理事らと「センター活動の説明」(小柳)

2004年10月の活動一覧

- 2日 【長 専】小柳秀明専門家(チーフアドバイザー)一時帰国、～19日まで
- 9日 【出張】新疆ウイグル自治区「環境保護法改正地方環保局ヒアリング調査」、～16日(皆川)
- 11日 【短 専】西川雅高短期専門家(都市大気中 SPM 標準物質作製指導)着任、～11月6日まで
- 12日 【会議等】「JICA 国内支援委員会」出席、「プロジェクト進捗等報告」(於東京 JICA 本部)(小柳)
- 14日 【会議等】「ひょうごエコタウン推進会議主催日中環境ビジネスフォーラム」参加・講演(於神戸市内)(小柳)
- 16日 【来 訪】国立環境研究所伊藤裕康主任研究員(国内支援委員)(貴戸ら)
- 17日 【出張】浙江省杭州市「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」、～19日(高橋)
- 18日 【会議等】「(社)海外環境協力センター(OECC)主催日中環境協力総合フォーラム」参加・講演(於東京国際フォーラム)(小柳)
- 21日 【会議等】「日中環境化学連合シンポジウム」開催、～23日
- 28日 【来 訪】外務省技術協力課中間弘課長補佐(小柳)
- 29日 【会議等】「チャイナカウンシル総会」出席(於アジアホテル)、～31日(小柳)
- 31日 【会議等】「国別特設公害防止管理者制度研修派遣前研修会」開催(於センター)(小柳、皆川)

2004年11月の活動一覧

- 1日 【会議等】「プロジェクトリーダー会議」出席(於 JICA 事務所)(小柳)  
【講師】渡辺康隆講師(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術)着任、～6日まで  
【調査団】運営指導調査団(今井千郎国内支援委員)「第三国研修打合せ」、～5日(高橋ら)
- 2日 【調査団】「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)終了時評価」調査団(高橋ら)  
【会議等】「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)」講義(於センター)(小柳、渡辺)  
【会議等】「プロジェクトリーダー会議(個別会議)」出席(於 JICA 事務所)(小柳、沢田)  
【打合せ】国立環境研究所合志陽一理事長らと「日中韓三カ国環境研究所の協力について」(於北京市内)(小柳)
- 3日 【会議等】「広島大学 COE プログラム・社会的環境管理能力形成と日中環境協力シンポジウム」出席(於北京市内)(小柳)  
【来訪】エムシーアルミ陶守誠一郎総経理ら2名(小柳、貴戸、皆川)  
【打合せ】国立環境研究所合志陽一理事長、中国環境科学研究院孟偉院長らと「二国間の研究協力について」(於北京市内)(小柳)
- 4日 【会議等】「現地国内研修(二酸化硫黄及び酸性雨対策技術研修)総括セミナー」(於センター)(小柳、高橋)  
【会議等】「第三国研修・参加者人選委員会」開催(高橋、今井)
- 5日 【会議等】「東アジア交流連携促進フォーラム 2004 北京」講演(於北京市内)(皆川)  
【来訪】JICA「技術協力促進」科技部・商務部の訪日研修員派遣前研修受入(小柳、皆川)
- 6日 【出張】上海市「中国循環経済発展フォーラム 2004 年会出席等」、～8日(小柳、皆川)  
【会議等】「中国循環経済発展フォーラム 2004 年年会」講演、(於上海市内)、(小柳)
- 8日 【出張】貴州省貴陽市/安順市「地方環境保護局長就任研修他」、～11日(上海から直行)(小柳)
- 9日 【会議等】「地方環境保護局長就任研修」講義(於貴陽市内)(小柳)
- 12日 【来訪】国立環境研究所寺園淳研究員(小柳、貴戸、皆川)  
【来訪】青島大学人工、資源及び環境経済研究所長戴玉才助教授(小柳)
- 14日 【来訪】(財)国際環境技術移転研究センター(ICETT)総務研修部菊池康一部長ら(小柳)

- 15日 【来訪】静岡県立三島南高等学校長岡歩美副主任(沢田)  
【調査団】運営指導調査団(柳下正治国内支援委員長及び千原大海国内支援委員)、～17日(全員)
- 17日 【会議等】「ODAタスクフォース環境分科会WG」出席(於JICA事務所)(小柳)
- 18日 【会議等】「SEPA、JICA、JBIC、センター及び専門家チーム定例会議」(於センター)(小柳、沢田)  
【出張】内蒙古自治区包頭市「循環経済生態工業モデル地区現地調査」、～20日(小柳、皆川)
- 22日 【短専】松井利恭短期専門家(酸性雨モニタリング技術指導)着任、～29日まで  
【出張】福建省廈門市/福州市/武夷山市「酸性雨モニタリング技術研修及び現地指導」、～28日(小柳、皆川、松井)
- 24日 【会議等】「酸性雨モニタリング技術研修会」開催、講義、～26日(小柳、皆川、松井)
- 23日 【来訪】本田技研工業環境安全企画室山下宏主幹ら3名(沢田)

## 2004年12月の活動一覧

- 1日 【短 専】杉本伸夫短期専門家(レーザーライダー操作指導)派遣、～14日  
【会議等】「ODAタスクフォース環境分科会WG」出席(於 JICA 事務所)(小柳)
- 2日 【出張】日本(東京、北九州)「解振華国家環境保護総局長日本出張随行等」、～10日まで(小柳)
- 3日 【来 訪】酪農学園大学・環境システム学部・金子正美助教授、他 25名、(高橋)
- 4日 【会議等】「日中韓3か国環境大臣会合等」出席(於東京)～5日(小柳)
- 8日 【出張】天津市、～11日、(貴戸、邸)
- 9日 【来 訪】JICA 大学生作文コンテスト入賞者、20名、(高橋、苑)  
【会議等】JICA 国内支援委員会出席(於 JICA 本部)(小柳)
- 11日 【出張】天津市、～11日、(皆川、高橋)
- 12日 【短 専】平山義康短期専門家(中国環境保護法の修正に関する研究)着任、～17日まで
- 13日 【来 訪】復旦大学国際経営技術講習所牧野長生理事長ら2名(小柳、高橋)  
【会議等】「中国環境保護法改正研究検討会」(於センター)、～15日(小柳、皆川、平山)
- 15日 【出張】広東省深圳市「日中水質自動計測技術セミナー」出席、～18日(小柳)
- 16日 【会議等】「日中水質自動計測技術セミナー」参加、講演(於深圳市)、～17日(小柳)  
【会議等】「POPs会議」、(貴戸)
- 20日 【長 専】位坂和隆長期専門家(業務調整担当)赴任  
【会議等】「SEPA、JICA、JBIC、センター及び専門家チーム定例会議」(於センター)(小柳、沢田、位坂)  
【会議等】「ODAタスクフォース環境分科会WG」(於 JICA 事務所)(小柳)
- 21日 【出張】上海市/江蘇省蘇州市「循環型経済に係る講演指導等」、～24日(小柳、皆川、貴戸)  
【会議等】「上海市発展改革委員会主催循環型経済に係る講演会」講演(小柳)
- 22日 【会議等】「蘇州市ハイテク技術開発区主催循環型経済に係る講演会」講演(小柳)

25日 【長 専】沢田博美長期専門家(業務調整担当)帰任



## 2005年1月の活動一覧

- 5日 【会議等】「ODA タスクフォース環境 WG 打合せ」参加(於 JICA 事務所)(小柳)
- 6日 【出張】内蒙古自治区呼倫貝爾(フロンベール)市「内蒙古自治区湿地保護情報管理システム検討会」～8日(小柳、貴戸)
- 6日 【会議等】「内蒙古自治区湿地保護情報管理システム検討会」共催(内蒙古自治区呼倫貝爾市)～8日(小柳、貴戸)
- 9日 【会議等】「循環経済訪日研修員派遣(9名)事前研修・説明会」開催(於センター)(小柳、皆川、位坂)
- 9日 【短 専】森口祐一短期専門家(循環経済構築のための技術移転)着任～12日まで
- 10日 【会議等】「循環経済と物質流分析セミナー」開催(於センター)～12日(小柳、皆川、森口)
- 10日 【会議等】SEPA による「中国の CDM 及び循環型経済の取り組みに関する説明会」出席(於センター)(全員)
- 11日 【来 訪】酸性雨研究センター世一良幸副所長ら3名(小柳、皆川、位坂)
- 12日 【出張】山東省青島市「循環型経済に係る案件形成調査」～15日(小柳)
- 16日 【打合せ】国立環境研究所循環型社会研究センター長酒井伸一と「循環型経済について」(小柳、皆川)
- 17日 【打合せ】SEPA 環境監察局陳善誉副局长らと「2005年度の企業環境保護監督員制度に係る進め方について」(於 SEPA)(小柳、皆川)
- 17日 【講 師】今井千郎講師(日本の都市汚染抑制措置&第三国研修モデレーター)着任～30日まで
- 17日 【会議等】「第三国研修・アジア地域環境保護能力向上」開催(於センター)～30日まで
- 18日 【会議等】「第三国研修・アジア地域環境保護能力向上」開幕式(於センター)(全員)
- 18日 【講 師】中山哲男講師(日本の企業環境管理)着任～22日まで
- 18日 【出張】貴州省貴陽市「環境モデル都市構想中間とりまとめ調整等」～20日(小柳)
- 20日 【来 訪】国立環境研究所西川雅高室長(国内支援委員会委員)「都市大気標準物質作成指導等」(小柳、貴戸、位坂)
- 21日 【打合せ】SEPA 国際合作司郭敬处长、張磊处长、日本大使館染野憲治一等書記官らと「SEPA 国際合作司新体制後の協力について」(高橋、位坂)
- 22日 【打合せ】北九州市環境局宮協幹仁主査、KITA 青柳祐治企画開発課長らと「日本地方自治体の対中環境協力のあり方について」(全員)
- 24日 【会議等】循環経済訪日研修員9名の日本での研修同行指導及び短期研修員研修評価会等出席(東京)～25日(小柳)
- 26日 【出張】遼寧省大連市「第三国研修研修員の現場研修指導」～28日(今井、貴戸、高橋)
- 29日 【会議等】「第三国研修・アジア地域環境保護能力向上」閉幕式(於センター)(今井、高橋、貴戸、位坂)

2005年2月の活動一覧

- 3日 【会議等】OECC 及び KITA 主催「日中環境協力情報交流会北九州セミナー」出席講演(於北九州市)(小柳)
- 4日 【会議等】「循環経済訪日研修評価会及び閉会式」出席(於 JICA 九州センター)(小柳)
- 18日 【来訪】日本工営(株)日本工営(株)副田俊吾環境技術部マネジメンター(皆川、位坂)
- 24日 【会議等】ICETT 主催「CTI アジア地域産業界合同技術移転セミナー」参加(皆川)
- 25日 【来訪】常磐大学海外研修団中岡まり講師ら9名(貴戸、位坂)
- 27日 【短専】田中充短期専門家(EIA 公衆参加)着任、～3月5日まで  
【短専】久保昌利短期専門家(EIA 公衆参加)着任、～3月5日まで  
【短専】齋藤良太短期専門家(EIA 公衆参加)着任、～3月5日まで
- 28日 【出張】四川省成都市「EIA 法公衆参加に係る地方実態調査」、～3月2日(位坂、森、田中、久保、齋藤)

2005年3月の活動一覧

- 1日 【出張】四川省成都市「EIA法公衆参加に係る地方実態調査」、2月28日～3月2日(位坂、森、田中、久保、齋藤)  
【来訪】(財)化学物質評価研究機構江藤千純研究企画部長ら2名(貴戸、皆川)
- 3日 【短専】早狩進短期専門家(粒子状物質の発生源解析)着任、～12日まで  
【会議等】SEPA環境工程評価中心と「EIA法住民参加実施細則作成について」(小柳、森、田中、斉藤、久保)
- 4日 【短専】塩崎卓哉短期専門家(POPsに関する技術移転)着任、～12日まで  
【来訪】(株)テクノバ保田富夫調査開発研究部長(皆川)  
【来訪】国立環境研究所伊藤裕康主任研究員(国内支援委員)(貴戸ら)
- 5日 【会議等】「大気環境中POPsモニタリング分析方法等研修会」開催、～6日(貴戸、小柳、塩崎)
- 7日 【会議等】「都市大気中粒子状物質の発生源解析実習」、～8日(貴戸、早狩)
- 8日 【会議等】「ダイオキシン室OJT管理指導」、～10日(貴戸、塩崎)  
【打合せ】(財)国際環境技術移転研究センター(ICETT)浅野彰子課長ら2名と「環境技術移転に関わる人材育成促進のための調査事業(フォローアップ調査)について」(小柳、皆川)
- 9日 【会議等】「都市大気中粒子状物質の発生源解析技術セミナー」開催、～11日(貴戸、小柳、早狩)  
【出張】貴州省貴陽市「環境モデル都市事業に係る記録作成等」、～11日(小柳)  
【出張】陝西省西安市「廃棄物処理セミナー講演」、～11日(皆川)
- 14日 【来訪】JOCV中等日本語教師隊員及びC/P・生徒訪問団33名(小柳、位坂)  
【出張】天津市「国立環境研究所寺園淳主任研究員らと天津鋼管有限公司電気炉へ視察同行」(貴戸、皆川)
- 15日 【来訪】富山県高等学校生徒海外派遣事業団長井幸雄ら25名(高橋、貴戸、皆川)  
【打合せ】青島市環境保護局と「循環型経済に係る案件形成について」、～16日(於センター)(小柳、皆川)
- 16日 【来訪】松下電器製造強化センター小川雅美環境保護担当部長(貴戸、位坂)  
【会議等】「2005年度第三国研修計画打合せ」(全員)
- 17日 【打合せ】センター政策研究部、名古屋大学井村秀文教授、環境省環境協力室関谷毅史室長補佐、OECC森一晃部長らと「チャイナカウンシル環境補償メカニズムタスクフォース設立に関する打合せ」(於センター)(小柳)  
【来訪】菅野庄一法律事務所嶋田久夫北京事務所代表(小柳、皆川)

- 18日 【打合せ】環境監測總站、国立環境研究所西川雅高室長らと「黄砂・酸性雨等モニタリングに係る無償資金協力申請案件に係る打合せ」(於センター)」(小柳、皆川)
- 24日 【出張】山東省青島市「循環型經濟に係る案件形成調査」、～26日(小柳、皆川)
- 25日 【来訪】JICA 中高生エッセイコンテスト受賞者 17名(位坂)
- 28日 【長専】須藤和男専門家(協力調整アドバイザー)赴任
- 30日 【来訪】日・中・スウェーデン ODA 研究者ら 3名(位坂)

2005年4月の活動一覧

- 5日 【打合せ】世界銀行東アジア太平洋局塚本直也上級環境技師(小柳)
- 6日 【来訪】中国国際ラジオ局(北京放送)坂本めぐみ記者(小柳、位坂、高橋)
- 7日 【出張】寧夏回族自治区石嘴山市「循環型経済に関する講演会」、～9日(小柳)
- 11日 【来訪】JICA日中林業生態研修センタープロジェクト宇津木嘉夫リーダーら5名(小柳、須藤、位坂)
- 13日 【会議等】「2005年度第1回合同調整委員会」開催(於センター)(全員)
- 15日 【会議等】「JICAプロジェクト業務調整員会議」参加(位坂)
- 17日 【調査団】酸性雨及び黄砂モニタリングネットワーク整備計画予備調査団への参団、～23日(小柳、皆川)
- 18日 【来訪】外務省町村信孝外務大臣、日本大使館阿南惟茂大使、国家環境保護総局(SEPA)解振華総局長ら10名(小柳、須藤、高橋、位坂)
- 【出張】陝西省西安市「酸性雨及び黄砂モニタリングネットワーク整備計画予備調査団随行」、～19日(小柳)
- 22日 【会議等】「POPs条約履行に関する中国での実施計画案会議(第2回)」参加(貴戸)
- 25日 【打合せ】国家環境保護総局(SEPA)人事司と「循環経済訪日研修について」(小柳)
- 27日 【来訪】外務省小西正樹特命全権大使(地球環境問題担当)ら2名(須藤、位坂)
- 28日 【会議等】「3Rイニシアチブ閣僚会合」出席(於東京)、～30日(小柳)
- 29日 【来訪】千葉大学大学生、北京連合大学教員ら2名(位坂)

## 2005年5月の活動一覧

- 11日 【打合せ】(社)海外環境協力センター(OECC)森一晃部長と「チャイナカウンシル TF について」(於センター)(小柳)  
【来訪】(株)日吉村田弘司専務取締役ら4名(小柳、貴戸)
- 12日 【打合せ】日本国際協力銀行(JBIC)小中鉄雄副所長ら5名と「環境モデル都市等に係る円借款環境案件フォローアップについて」(小柳、森)  
【出張】河北省保定市「循環経済と生態都市建設国際学術セミナー出席講演」～14日まで(小柳)
- 13日 【会議等】「循環経済と生態都市建設国際学術セミナー」出席講演～14日まで(小柳)
- 15日 【会議等】「循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修」共催(於センター)～25日まで
- 16日 【会議等】「循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修」開講式(於センター)(全員)
- 17日 【来訪】日本国際協力銀行(JBIC)小中鉄雄副所長ら3名(高橋、森)  
【打合せ】環境省小池百合子環境大臣訪中対応(近況ブリーフィング)(小柳)
- 18日 【打合せ】中国環境管理幹部学院院長ら3名と「循環経済に関する協力について」(於センター)(小柳)  
【視察等】「循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修」北京市地熱エネルギー使用施設等視察同行(小柳、須藤、皆川、高橋、森)  
【打合せ】SEPA 環境監察局陸軍処長らと「企業環境保護監監督員研修について」(於SEPA)(小柳、皆川)
- 20日 【会議等】「循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修」終了式(於センター)(全員)
- 23日 【来訪】(財)国際環境技術移転研究センター(ICETT)企画調査部山口望美係長、弓場直子係長ら2名(高橋、位坂)  
【出張】山東省青島市「循環型経済に関する開発調査案件形成支援」～25日(小柳、皆川)
- 24日 【打合せ】青島市崔錫柱副市长らと「循環型経済に係る案件形成現地ヒアリング」(小柳・皆川)
- 25日 【打合せ】青島市城陽区王魯明区長らと「循環型経済に係る案件形成現地ヒアリング」(小柳・皆川)  
【調査団】運営指導調査団(JICA 地球環境部日浅美和担当)「今後のプロジェクト協力及び終了時評価にかかる協議」～27日(全員)
- 26日 【会議等】「循環経済に関する参加型ワークショップ」開催(全員)
- 27日 【打合せ】JICA 地球環境部担当、中国事務所、専門家チームらと「今後の協力の進め方について」(於 JICA 中国事務所)(小柳、須藤、皆川、位坂)  
【来訪】(財)日本環境協会斉藤照夫専務理事ら3名(小柳、皆川、高橋)  
【会議等】「日中環境ラベル協力協定文書交換式」(於センター)(小柳、皆川、高橋)
- 30日 【出張】貴州省貴陽市「環境モデル都市構想中間とりまとめ資料、宣伝教育用資料作成等について」、～6月1日(小柳)  
【会議等】「ADB 第四回ドナー協調会議(乾燥地生態系)」出席(須藤)
- 31日 【会議等】「危険廃棄物管理政策処理技術国際会議」出席(貴戸、皆川)

2005年6月の活動一覧

- 2日 【会議等】「The 2nd International Forum on Leapfrogging Development in China And the 4th China BELL Annual Conference」出席～3日(須藤、貴戸)  
【来訪】日本大使館遠藤和也参事官ほか7名(小柳、須藤、皆川、高橋、位坂)  
【会議等】「国内支援委員会 TV 会議(今後の協力のあり方について)」(於 JICA 中国事務所)(小柳、須藤、皆川、高橋、位坂)  
【出張】寧夏回族自治区銀川市「APEC 循環経済と西部大開発会議出席」～5日(小柳)
- 3日 【会議等】SEPA 主催「企業環境保護監督員制度事前研修会」参加(於 SEPA)(皆川)
- 4日 【出張】遼寧省瀋陽市「グリーン都市国際市長フォーラム参加」～7日(須藤)
- 6日 【出張】安徽省合肥市他「環境保護法改正プロジェクト現地調査」～12日(皆川)  
【打合せ】(社)日本環境技術協会石田耕三会長ら5名(小柳)
- 7日 【会議等】「第9回国際環境保護展覧会」参加(小柳、高橋)
- 8日 【出張】山東省烟台市「烟台市における循環経済への取組調査等」(小柳)、～11日  
【会議等】烟台師範学院での講演会「日本の循環型経済への取組」講演(小柳)
- 9日 【会議等】烟台大学での講演会「日本の循環型経済への取組」講演(小柳)
- 13日 【出張】広東省深圳市他「深圳市危険廃棄物処理場見学、日本電子 WEEE & RoHS セミナー出席」～15日(貴戸)  
【来訪】JICA 太湖水環境修復モデルプロジェクト下高原博美専門家(高橋、位坂)
- 16日 【出張】甘肅省蘭州市・湖北省武漢市「酸性雨精度管理現地調査」～26日(皆川)
- 20日 【来訪】日本鉄鋼連盟北京事務所伊藤仁所長ら4名(小柳、位坂)
- 22日 【会議等】「地方環境保護局長就任研修」講演(於センター)(小柳)
- 24日 【会議等】SEPA 主催「国際環境政策対話集会」参加(於 SEPA)(小柳、須藤)
- 25日 【会議等】「国家発展改革委員会等主催 China Development Forum2005」出席(於釣魚台賓館)(小柳)
- 26日 【打合せ】国際グリーン購入ネットワーク(IGPN)山本良一代表(東京大学教授)、グリーン購入ネットワーク(GPN)佐藤博之事務局長(小柳、高橋)  
【短専】田口整司短期専門家(グリーン購入関連)着任、～6月30日まで  
【短専】原田和幸短期専門家(グリーン購入関連)着任、～6月30日まで
- 28日 【会議等】「中国政府グリーン購入国際セミナー」参加(於センター)～29日まで(小柳、皆川、高橋、原田、田口)  
【来訪】グリーン購入ネットワーク(GPN)山本良一代表、佐藤博之事務局長(小柳、皆川、高橋)

- 29日 【会議等】「国際グリーン購入ネットワーク(IGPN)とSEPA 認証センターとの交流会」開催(於センター)(小柳、皆川、高橋、原田、田口)
- 29日 【会議等】「日本のグリーン購入法説明会」開催(於センター)(小柳、皆川、高橋、原田、田口)
- 30日 【会議等】「中国有機食品発展フォーラム(中国環保産業協会有機食品分会)」参加(於センター)(高橋)
- 【来 訪】(株)アファス認証センター中西豊代表、森本誠悟認証本部長ら3名(高橋)
- 【出 張】貴州省貴陽市「環境モデル都市構想中間とりまとめ資料、宣伝教育用資料作成等について」～7月1日(小柳)



2005年7月の活動一覧

- 2日 【会議等】「循環経済訪日研修事前研修会」開催・講義(於センター)～3日(小柳、皆川、須藤、位坂)
- 3日 【会議等】「循環経済訪日研修 JICA 事務所事前オリエンテーション」(於センター)(小柳、皆川、須藤、位坂)  
【短 専】塩崎卓哉短期専門家(ダイオキシン分析技術)着任～13日まで  
【調査団】運営指導調査団(伊藤裕康国内支援委員)「ダイオキシン・POPs分野における協力運営指導」～10日まで
- 4日 【会議等】無償資金協力「酸性雨及び黄砂モニタリングネットワーク整備計画予備調査」調査団への参団(於北京)～8日(小柳、皆川)
- 5日 【来 訪】全日本学士会会誌 ACADEMIA 大元守編集主幹(須藤、位坂)
- 6日 【会議等】「ダイオキシン分析技術セミナー」開催(於センター)～8日
- 12日 【出張】河北省秦皇島市「地方環境保護局長就任研修」～13日(皆川)
- 13日 【会議等】「地方環境保護局長就任研修」講義(於秦皇島市)(皆川)
- 17日 【短 専】原口清史短期専門家(固体廃棄物再資源化研究の推進)着任～23日
- 19日 【来 訪】外務省西村六善特命全権大使(地球環境問題担当)(全員)  
【来 訪】JICA 鉄鋼業環境保護技術向上プロジェクト上村正弘リーダーら3名(全員)
- 21日 【出張】貴州省貴陽市「環境モデル都市構想中間とりまとめ資料、宣伝教育用資料作成等について」～23日(小柳)
- 23日 【出張】江蘇省鎮江市等「日中協力電力企業環境保護監督員制度研修」～30日(小柳、皆川)
- 24日 【会議等】「日中協力電力企業環境保護監督員制度研修」開催・講義(於鎮江市)～28日(小柳、皆川、中山、堀井)
- 25日 【短 専】中山哲男短期専門家(企業環境保護監督員制度)着任～30日  
【短 専】堀井祐三短期専門家(企業環境保護監督員制度)着任～30日

2005年8月の活動一覧

- 1日 【調査団】日本科学技術振興機構(JST)プロジェクト形成調査団支援～3日(小柳)  
【訪問】清華大学、中国科学院生態環境研究中心(JST調査団同行)(小柳)
- 3日 【訪問】中国環境科学研究院(JST調査団同行)(小柳)
- 4日 【会議等】「第4回 JICA エネルギー・鉱業ワークショップ(CDM)・TV会議」(於 JICA 事務所)(須藤、皆川、高橋)
- 8日 【出張】青海省西寧市・玉樹州等「環境保護法改正・西部環境管理現地調査」～14日(小柳、皆川)
- 9日 【来訪】JICA 教師海外研修中国コース8名(位坂)
- 16日 【来訪】UNDP 中国事務所エネルギー環境課インターン明和美桂(小柳、高橋)
- 18日 【会議等】「新規環境要請案件検討会」(於 JICA 事務所)(小柳、須藤、高橋)
- 19日 【会議等】「循環経済訪日研修事前研修会」開催・講義(於センター)(小柳、皆川、位坂)  
【会議等】「ODA タスクフォース環境分科会」参加(於 JICA 事務所)(小柳)
- 21日 【短専】田森行男短期専門家(CDM 技術支援)着任～25日まで  
【短専】杉本伸夫短期専門家(黄砂研究の総括的指導)着任、31日まで
- 22日 【会議等】「CDM プロジェクト認証及び DOE(指定運営機関)に関する検討会」開催・講義(於センター)～24日(田森、須藤、皆川、高橋)
- 24日 【出張】内蒙古自治区フフホト市「第3回国際黄砂降塵ワークショップ参加他」～26日(須藤、貴戸、杉本)  
【来訪】目黒学院高校アジアセミナー参加団団 19名(位坂)  
【来訪】大阪外国語大学国際関係学部竹内俊隆教授ら4名(位坂)
- 25日 【会議等】「第3回国際黄砂降塵ワークショップ」参加～26日(須藤、貴戸、杉本)
- 28日 【会議等】「チャイナカウンシル生態補償メカニズム TF 第1回会合」参加(於センター)～29日(小柳、須藤、高橋)
- 29日 【来訪】東京唯物論研究会平子友長会長ら12名(小柳、位坂)  
【出張】貴州省貴陽市「モデル都市中間評価資料の編集打合せ等」～31日(小柳)

2005年9月の活動一覧

- 1日 【会議等】「循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修・第2回」開催・講義(於センター)～10日(小柳、皆川、貴戸、高橋)  
【会議等】「フェーズⅢ終了以降の協力について」(於 JICA 事務所)(小柳、須藤、位坂)
- 2日 【来訪】日産自動車(中国) 公司環境安全部中川恒彦部長ら2名(小柳)
- 4日 【短専】小島道一短期専門家(資源循環の越境移動)着任～11日まで
- 5日 【打合せ】SEPA 国際合作司張磊処長らと「終了時評価の進め方について」(於 SEPA)(須藤、位坂)
- 6日 【会議等】「終了時評価 TV 会議」(於 JICA 事務所)(小柳、須藤、貴戸、皆川、高橋、位坂)
- 7日 【出張】山東省青島市「循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修の現地考察同行」～10日(高橋、小島)  
【会議等】「日中韓3か国副大臣級循環経済高級シンポジウム・プレ会合(於センター)」参加(小柳)
- 8日 【会議等】「日中韓3か国副大臣級循環経済高級シンポジウム・副大臣級会合(於センター)」参加(小柳)  
【出張】天津市「日中韓3か国副大臣現地視察随行」(小柳)
- 9日 【会議等】「POPs条約に関する中国国家履行計画策定技術グループ第3回会議」(於北京市)(貴戸)
- 11日 【調査団】終了時評価コンサル団員(監物順之)到着～29日まで
- 12日 【来訪】政策投資銀行国際協力部中谷隆之課長(小柳)
- 13日 【出張】貴州省貴陽市「終了時評価に係る貴陽市循環経済弁公室・環境保護局ヒアリング」～14日(須藤)
- 14日 【打合せ】SEPA 国際合作司張磊処長・日本大使館染野憲治一等書記官・日本国際協力銀行(JBIC)小中鉄雄副所長・JICA 中国事務所国武大紀所員ら12名と  
「クリーン開発メカニズム(CDM)シンポジウムについて」(於 SEPA)(森、高橋)
- 16日 【打合せ】SEPA 汚染控制司石効巻副処長「水質に係る類型指定、基準設定について」(於センター)(小柳)
- 19日 【調査団】終了時評価官団員(富本幾文団長ら5名)到着～29日まで
- 20日 【打合せ】SEPA 国際合作司唐丁丁副司長他「中国側合同評価委員会への方針説明」(於 SEPA)(小柳、須藤)
- 21日 【打合せ】JICA 日中林業生態研修センタープロジェクト・北京林業幹部学院朱延福副院長(須藤)  
【打合せ】中国環境科学研究院孟偉院長らと「フェーズⅢ協力の成果等について」(小柳、須藤)
- 22日 【打合せ】SEPA 科学技術司・環境監察局・人事司他「フェーズⅢ協力の成果等について各領域別ヒアリング」(小柳、須藤、皆川、貴戸、高橋)  
【打合せ】SEPA 張力軍副局長他「フェーズⅢ協力の成果及び今後の協力に関する意見交換」(小柳、須藤、皆川、貴戸、高橋)
- 23日 【打合せ】国家発展改革委員会環境資源司馬栄処長「中国における循環経済への取組状況について」(小柳、須藤)  
【打合せ】清華大学環境学部張天柱教授「清華大学における循環経済への取組状況について」(皆川)

- 【打合せ】清華大学環境科学工学部余剛副主任「清華大学におけるダイオキシン分野の取組状況について」(貴戸)
- 【打合せ】GTZ 中国事務所 Dr.P.Suding 環境保護・エネルギー管理部長「GTZ の中国環境分野での取組み状況について」(須藤)
- 【来 訪】北九州市末吉興一市長ら 2 名 (小柳、貴戸)
- 26 日 【会議等】世界銀行中国事務所 Mr.A.Liebenthal 環境社会開発部長「世銀の中国環境分野での取組み状況について」(須藤、森)
- 【来 訪】環境省地球環境局環境保全対策課小川晃範課長 (小柳)
- 【来 訪】酸性雨研究センター植田洋匡所長ら 4 名
- 27 日 【会議等】「終了時評価合同評価委員会」(於 SEPA) (小柳、須藤)
- 28 日 【会議等】「2005 年度第 2 回合同調整委員会」開催(全員)
- 【会議等】「終了時評価 MM 締結式」(全員)
- 29 日 【打合せ】終了時評価調査団「在中華日本大使館遠藤和也参事官らへの報告」(於日本大使館) (小柳、須藤)
- 【打合せ】終了時評価調査団「JICA 中国事務所長への報告及び打合せ」(於 JICA 事務所) (小柳、須藤)

2005年10月の活動一覧

- 10日 【来訪】(株)日立総合計画研究所桑原亜希子研究員(皆川、位坂)
- 11日 【会議等】「第2回 JICA-環境 NGO 連絡協議会」参加(高橋、位坂、森)
- 13日 【来訪】アイシン精機平田実環境部長ら3名(小柳、皆川)
- 14日 【会議等】「JICA プロジェクトリーダー会議・事務所次年度計画ヒアリング」(於 JICA 事務所)(小柳、位坂)
- 17日 【来訪】立命館アジア太平洋大学仲上健一副学長ら4名(高橋、位坂)  
【来訪】嘉重貿易コンサルタント巴力副社長ら2名(皆川)
- 21日 【会議等】「JICA プロジェクトリーダー会議」参加(於 JICA 事務所)(位坂)
- 22日 【短 専】山本良一短期専門家(企業環境保護監督員制度)着任～25日まで  
【出張】広東省東莞市「企業環境保護監督員制度研修」～27日(皆川)
- 23日 【会議等】「企業環境保護監督員制度研修」開催(於東莞市)～26日
- 24日 【短 専】大澤純二短期専門家(企業環境保護監督員制度)着任～27日まで
- 26日 【会議等】「JICA 事務所主催講演会(十一五カ年計画)」出席(於 JICA 事務所)(小柳、須藤、位坂)
- 28日 【会議等】「地方環境保護局長就任研修」講義(於センター)(小柳)
- 30日 【出張】天津市「天津市循環経済の発展・生態工業園の建設シンポジウム出席講演」～11月2日(小柳)
- 31日 【会議等】「天津市循環経済の発展・生態工業園の建設シンポジウム」出席講演(小柳)

2005年11月の活動一覧

- 3日 【来訪】北九州市環境局環境経済部今永博部長、KITA 環境協力センター内藤英夫次長ら3名(小柳、貴戸、位坂)  
【会議等】「Impacts & Adaptation on Agriculture by Climate Change」参加(於北京市内)(須藤)
- 7日 【来訪】チベット羊八井地熱開発調査コンサルタント宮崎真一コンサルタント(位坂)
- 8日 【会議等】「China Biodiversity Partnership Framework Meeting」参加(於北京市内)(須藤)  
【来訪】東京大学林秀臣氏(小柳)
- 9日 【来訪】(独)産業技術総合研究所環境管理技術研究部門大矢仁史グループリーダー、小山和也研究員(貴戸、皆川)
- 10日 【会議等】SEPA 人事司張聯副司長ら5名と「SEPA 人事司が関与する海外研修について」(小柳)
- 11日 【出張】江西省南昌市「地方環境保護局長就任研修(西部支援)開幕式出席及び講義」～13日(小柳、高橋)
- 12日 【会議等】「地方環境保護局長就任研修(西部支援)」共催(於南昌市)～28日まで
- 13日 【講師】今井千郎講師(第三国研修・コースアドバイザー)着任～27日まで
- 14日 【会議等】「第三国研修・アジア地域環境保護能力向上」開催(於センター)～27日まで  
【会議等】「第三国研修・アジア地域環境保護能力向上」開幕式(於センター)(全員)  
【講師】橋徹講師(第三国研修・日本における環境保護環境管理)着任～18日まで  
【講師】小島道一講師(第三国研修・地域間環境協力)着任～19日まで
- 15日 【会議等】「日中バイオマスフォーラム」参加(於北京市内)(小柳、須藤、皆川)  
【短 専】松井一郎短期専門家(黄砂研究の総括的指導)着任～26日まで
- 16日 【会議等】中国環境科学研究院・BASF 共催「環境と持続可能な発展に関するワークショップ」参加(於北京市内)(小柳、貴戸)  
【会議等】「JICA 有識者講演会」講演(於 JICA 事務所)(小柳)  
【来訪】UFJ 総研環境エネルギーチーム青野雅和シニアコンサルタント(須藤、位坂)
- 18日 【会議等】「チャイナカウンシル総会」出席(於北京市内)～20日(小柳、貴戸)
- 20日 【会議等】「チャイナカウンシル生態補償メカニズムラスクフォース非公式会合」(於センター)(小柳)
- 20日 【会議等】「全人代資源環境保護委員会環境立法フォーラム・日中循環経済専門討論会」参加・講演(於北京市内)(小柳、皆川)
- 21日 【出張】内蒙古自治区フフホト市「内蒙古自治区環境観測センターのレーザーレーダーの保守点検」～23日(貴戸、松井)  
【来訪】日本テレビ報道局外報部勝田真司ら3名取材(小柳)
- 22日 【出張】日本(東京・新潟)「日中友好環境センター代表団訪日セミナー等同行・講演」～29日(小柳)

- 【会議等】「第三国研修・現地視察」(於北京市内)(今井、須藤、皆川)
- 23日 【会議等】「東アジア酸性雨問題国際フォーラム」出席・講演(於新潟)(小柳)
- 24日 【出張】江蘇省蘇州市「第三国研修・研修員の現場研修指導」～26日(今井)
- 【会議等】「日中友好環境保全センター・海外環境協力センター共催セミナー」開催・講演(於東京)(小柳)
- 25日 【来訪】JICA 緒方貞子理事長、日本大使館西宮伸一公使ら8名(須藤、貴戸、皆川、森、高橋、位坂)
- 27日 【会議等】「第三国研修・アジア地域環境保護能力向上」閉幕式(於センター)(今井、須藤、貴戸、高橋、位坂)
- 【会議等】「日中環境マネジメントシステムセミナー」参加(於北京市内)(皆川)
- 28日 【来訪】(財)国際環境技術移転研究センター(ICETT)企画調査部浅野彰子課長、黒田直子係長(皆川、位坂)
- 30日 【会議等】「日中 NGO シンポジウム」出席(於北京市内)(須藤、貴戸、森)

2005年12月の活動一覧

- 1日 【会議等】「JICA チベット羊八井地熱開発調査報告会」(於センター)  
【会議等】「日中 NGO シンポジウム(JICA 主催)」参加(於北京市内)(須藤、貴戸)
- 2日 【会議等】「アジア資源循環 TV 会議」(於 JICA 事務所)(須藤、貴戸、皆川)
- 5日 【打合せ】JICA 太湖プロジェクト関係者及び太湖プロジェクト終了時評価団との意見交換(須藤、貴戸、皆川、位坂)
- 6日 【来 訪】JICA 中国大学生作文コンテスト入賞者ら 32 名(須藤、貴戸、皆川、高橋、位坂)
- 7日 【短 専】塩崎卓哉(POPs分析技術)着任～17日まで  
【調査団】運営指導調査団(伊藤裕康国内支援委員)「ダイオキシン・POPs分野についての今後の協力協議」～10日(須藤、貴戸ら)  
【会議等】「ダイオキシン分析技術移転に関する意見交換」(伊藤、塩崎、須藤、貴戸)
- 8日 【調査団】運営指導調査団(日浅美和 JICA 地球環境部担当)「フェーズⅢフォローアップ/延長活動内容についての協力協議」～10日(須藤、貴戸、皆川ら)
- 9日 【来 訪】升本潔 JICA 地球環境部第二 G グループ長(須藤、皆川、貴戸ら)  
【会議等】「フェーズⅢフォローアップ/延長活動内容についての協力協議」(升本、伊藤、塩崎、日浅、須藤、貴戸、皆川)
- 10日 【打合せ】運営指導調査団、柳下国内支援委員長、JICA 事務所と「今後の協力の方向性について」(於北京市内)(須藤、貴戸、皆川、位坂)
- 11日 【短 専】中野武(POPs分析技術)着任～14日まで
- 12日 【会議等】「POPs分析技術精度管理技術研修」開催(於センター)～14日(貴戸、塩崎、中野)  
【来 訪】JICA 中国事務所難波緑技術協力アドバイザーら 2 名(須藤、位坂)
- 16日 【会議等】「JICA 有識者講演会」参加(於 JICA 事務所)(須藤、位坂)
- 19日 【来 訪】NHK 仁平雅夫プロデューサーら 2 名(須藤、貴戸、位坂)
- 20日 【会議等】「中国電力業界の排煙脱硫現状調査最終報告会」参加(於 JICA 事務所)(須藤、貴戸)
- 22日 【会議等】成蹊大学広野良吉名誉教授との意見交換(須藤、貴戸)
- 23日 【会議等】成蹊大学広野良吉名誉教授との意見交換(貴戸、森)



2006年1月の活動一覧

- 11日 【出張】山東省青島市「中国ドイツ環境フォーラム出席」～14日(小柳、須藤)  
【会議等】「第2回中国ドイツ環境フォーラム」参加～13日(小柳、須藤)  
【来訪】筑波大学進藤栄一名誉教授(位坂)
- 12日 【打合せ】青島大学戴玉才助教授と「日本の循環経済研究グループとの共同研究」について(小柳、須藤)
- 13日 【来訪】JICA 中国事務所ボランティア調整員渡邊憲夫、JICA 中国事務所新人職員ら4名(位坂、貴戸、高橋)
- 14日 【打合せ】北京環境ボランティアグループ(BEV ネット)との交流会(於北京市内)(位坂)
- 16日 【打合せ】国立環境研究所西川雅高室長と「フェーズⅢ終了後の黄砂モニタリング」について(小柳)  
【打合せ】江蘇省宜興市宜興環保科技工業園区招商局2名と「日本企業の誘致等」について(小柳)
- 17日 【来訪】トヨタ技術統括部大下隆三主担当員(小柳、位坂)  
【来訪】トヨタバイオ緑化事業部国友淳子係長(小柳、位坂、高橋)  
【出張】貴州省貴陽市「貴陽市環境モデル都市事業成果レポート取りまとめ打合せ及び事業進捗状況ヒアリング」～20日(小柳)
- 19日 【打合せ】SEPA 環境監察局と「企業環境保護監督員制度分野での今後の協力量針について」(須藤、皆川、位坂)
- 23日 【打合せ】NGO北京地球村と「ジャーナリストフォーラムの開催」について(小柳)  
【打合せ】国家發展改革委員会、新能源中心、日本環境省等と「CDM分野における協力の進め方について」(於北京市内)(小柳)
- 24日 【会議等】「ICS-CDM フォーラム」(於北京市内)(小柳、須藤、森)  
【会議等】「山東省綠色フォーラム事前説明会」(於北京市内)(皆川)
- 25日 【会議等】温家宝総理等と外国人専門家との座談会・晩餐会出席(於人民大会堂)(小柳)
- 26日 【来訪】「国際人材交流雑誌社」(外国専門家局所属)王泱記者取材(小柳)

2006年2月の活動一覧

- 6日 【来訪】国家環境保護総局(SEPA)周生賢局長(須藤、貴戸、皆川、高橋、位坂、森)
- 8日 【会議等】「平成17年度第2回 ODA タスクフォース環境分科会」出席、(於 JICA 事務所)(須藤、皆川、高橋、位坂)
- 12日 【短専】久保昌利短期専門家(EIA 公衆参加)着任、~17日まで  
【短専】齋藤良太短期専門家(EIA 公衆参加)着任、~17日まで
- 13日 【来訪】SGE 大橋眞マネージャー、藤井大将ら2名「開放実験室への技術指導」(貴戸)  
【打合せ】「CCTV テレビドキュメント『日本の循環経済への取組』番組撮影チーム結団式」参加(小柳、高橋)  
【出張】天津市「環境影響評価における公衆参加に関する暫定実施方法公布に先立つ日中 EIA セミナー参加」(森、久保、齋藤、位坂)~16日まで
- 14日 【会議等】「環境影響評価における公衆参加に関する暫定実施方法公布に先立つ日中 EIA セミナー」主催(於天津市)~15日  
【来訪】(財)石油産業活性化センター(JPEC)中沢啓介、嶋崎彰主任研究員ら2名(小柳、須藤、貴戸、皆川)  
【来訪】同和鋳業嶋田和明本社事業部長ら2名(小柳、皆川)
- 16日 【来訪】中国建築材料工業規画研究院張士秀副院長ら2名(小柳)
- 17日 【会議等】「CCTV テレビドキュメント『日本の循環経済への取組』番組撮影チーム」に対する日本の循環型社会理解促進研修の実施(小柳、皆川)
- 19日 【短専】森口祐一短期専門家(循環経済制度の枠組み等の研究)着任~21日まで  
【その他】JICA 経済開発部アジア循環型経済研究調査団、~3月9日
- 20日 【会議等】「循環経済専門家検討会」開催(小柳、皆川、森口)  
【来訪】国立環境研究所村上進亮博士「循環経済専門家検討会」参加  
【来訪】国別特設「技術協力促進」研修員ら14名(須藤、貴戸、位坂)  
【来訪】北九州市環境局環境経済部・小園理恵、KITA 環境協力センター内藤英夫次長ら2名(小柳、貴戸)  
【会議等】国家環境保護総局科技標準司趙英民司長らと「循環経済に係る研修の実施について」(於 SEPA) (小柳)  
【会議等】国家環境保護総局環境監察局陸新元局長らと「企業環境保護監督員制度に係る今後の協力の進め方について」(於 SEPA) (小柳)  
【出張】福建省廈門市「循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修開幕式」参加~22日(高橋)
- 21日 【会議等】「循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修・第3回」開催・講義(於廈門市)~26日(小柳、皆川)  
【その他】JICA「アジアにおける循環型社会の構築に向けた技術協力のあり方」研究調査団プロジェクトヒアリング(於センター)(小柳、須藤、皆川)  
【その他】プロジェクトフェーズⅢ延長 R/D 署名式(於センター)(小柳、須藤、皆川、貴戸、位坂)
- 22日 【出張】福建省廈門市「循環経済社会に向けた政策改革と体制づくり研修・第3回での講義」~25日(小柳、皆川)

- 23日 【短 専】寺園淳短期専門家(循環経済制度の枠組み等の研究)着任、～25日まで  
【短 専】篠原弘志短期専門家(循環経済制度の枠組み等の研究)着任、～25日まで  
【会議等】「JICA プロジェクト業務調整員会議」出席(於 JICA 事務所)(位坂)
- 24日 【来 訪】JICA 四川森林プロジェクト町田良太業務調整員、JICA 湖北林木育種プロジェクト井上治子業務調整員ら3名(高橋、位坂)
- 26日 【短 専】西川雅高短期専門家(プロジェクト総括セミナー)着任、～3月12日まで  
【来 訪】東アジア環境協力調査・パシフィックコンサルタンツ山口和子(皆川)  
【出張】黒龍江省ハルビン市「環境法改正現地調査及びセミナー」参加講義、～3月2日まで(小柳、皆川)
- 27日 【会議等】「環境法改正セミナー」開催～28日(小柳、皆川)

2006年3月の活動一覧

- 2日 【調査団】運営指導調査団(伊藤裕康国内支援委員)「ダイオキシン/POPs分野について延長期間業務内容確認」、～8日まで(須藤、貴戸)  
【短 専】塩崎卓哉短期専門家(ダイオキシン/POPs分析技術移転)着任、～5日まで
- 3日 【来 訪】日本青年会議所植林訪中団40名来訪(位坂)  
【来 訪】海外環境協力センター片山徹専務理事、日本環境技術協会近藤誠事務局長ら3名(小柳)
- 4日 【打合せ】運営指導調査団(伊藤、塩崎)との「ダイオキシン/POPs分野の協力について」(須藤、貴戸)
- 5日 【短 専】松村治夫短期専門家(固体廃棄物再資源化研究の推進)着任、～12日まで
- 6日 【調査団】運営指導調査団(外務省技術協力課中間弘課長補佐)「ダイオキシン/POPs分野について延長期間業務内容確認」、～8日まで
- 7日 【会議等】「日中友好環境保護センターJICA技術協力プロジェクト総括セミナー」(於センター)(全員)  
【その他】NHK、中国中央電視台(CCTV)の取材(小柳)  
【その他】国家環境保護総局(SEPA)祝光曜局長らにプロジェクト終了報告等(於SEPA)(全員)
- 8日 【会議等】「固体廃棄物量推定法に関する勉強会」、～9日(貴戸、松村)  
【来 訪】(財)石油エネルギー活性化センター(JPEC)中澤啓介、嶋崎彰主任研究員ら2名(須藤)
- 9日 【出張】大連市「環境モデル都市構想事業とりまとめ打合せ会議」出席、～11日まで(小柳)  
【打合せ】SEPA国際合作司張磊処長らと「センター10周年記念式典について」(於SEPA)(須藤、位坂)
- 10日 【会議等】JBIC主催「環境モデル都市シンポジウム」(小柳)
- 11日 【会議等】チャイナカウンシル生態補償メカニズムタスクフォース第1回課題組会議出席、～12日まで(小柳、須藤)
- 12日 【短 専】松本光弘短期専門家(都市大気中粒子状物質発生源の解析)着任、～18日
- 13日 【来 訪】環境省地球環境局環境協力室田中聡志室長ら2名(小柳)
- 15日 【その他】在中国日本大使館西宮公使らにプロジェクト終了の挨拶等(小柳、貴戸、皆川、高橋、須藤)  
【会議等】日本大使館広報文化センターにて「プロジェクトフェーズⅢの総括ー成果と今後の発展の方向ー」について講演(小柳)  
【その他】中国国際放送局の取材(小柳)  
【その他】「天津企業管理研修センター設立20周年記念式典」参加(位坂)
- 16日 【会議等】SEPA環境監査局との意見交換(小柳、須藤、皆川)
- 17日 【会議等】環境監測総站と「日本の環境モニタリングシステムについて」(小柳、皆川、貴戸)

- 20日 【来訪】桃山学院大学竹歳一紀教授、アジア経済研究所大塚健司主任研究員ら3名(小柳)  
【出張】南通市、蘇州市「南通市循環経済研修」及び「国際グリーン購入ネットワーク中国会議」出席、24日まで(小柳)  
【出張】青島市、上海市、杭州市「電子廃棄物実態調査」、～24日まで(皆川)
- 21日 【会議等】「南通市循環経済研修」での講義(於南通市)(小柳)
- 22日 【来訪】北九州市循環型経済調査団・北九州市環境局環境経済部今永博部長、小園理恵、KITA 環境協力センター内藤英夫次長ら3名(須藤、貴戸、位坂)
- 23日 【会議等】「国際グリーン購入ネットワーク中国会議」出席、24日まで(小柳)
- 24日 【その他】「センター設立10周年記念植樹活動」参加(須藤、貴戸、位坂)
- 27日 【その他】日本経済新聞社の取材(小柳)  
【その他】日本テレビへの取材(小柳)
- 29日 【その他】科学技術部へのプロジェクト終了の挨拶等(全員)  
【その他】JICA事務所職員へのプロジェクト総括報告会(小柳、貴戸、皆川、高橋)  
【会議等】「TV会議(企業環境監督員制度の推進について)」(於JICA事務所)(小柳、須藤、皆川、位坂)  
【打合せ】「オゾン層保護に関する途上国ニーズ調査」川西正人調査団員らと(於JICA事務所)(須藤、位坂)
- 30日 【その他】「オゾン層保護に関する途上国ニーズ調査・川西正人調査団員とSEPA訪問」(須藤)
- 31日 【長専】小柳秀明専門家(チーフアドバイザー)任期満了帰国  
【長専】皆川新一専門家(政策制度支援領域担当)任期満了帰国  
【長専】貴戸東専門家(技術移転支援領域担当)任期満了帰国  
【長専】高橋元喜専門家(一般協力課題支援担当)任期満了帰国

プロジェクト要約	指標	指標測定方法・指標データ入手手段	重要な外部条件
(上位目標) 国家第十次五カ年計画に掲げられた環境分野の計画達成にセンターが貢献する。	センターの活動成果の国家第十次五カ年計画推進への反映状況	・国家環境保護総局へのヒアリング ・中国環境年鑑等 ・新聞報道等	中国において環境対策が国の重要課題として取り組まれる。
(プロジェクト目標) センターが中国の環境保全上の重要課題の解決に指導的な役割を發揮し、また、その成果を中国国内に展開することにより中国各地の環境問題の改善に寄与する。	活動成果の事業・政策・制度への反映状況  活動成果の地方での貢献の状況	・センターの年報等報告書 ・中国環境年鑑等 ・国家環境保護総局へのヒアリング ・地方環境保護局等へのヒアリング ・新聞報道等  ・センターの年報等報告書 ・地方環境保護局へのヒアリング	センターが様々な機関と連携協力し、重要課題に取り組む際の機関として位置づけられる。
(成果) 1. 各課題についての活動により得られる主な成果は次のとおり。 (1)広域的な拡がりを持つ大気汚染問題 酸性雨のモニタリング手法が確立し、発生メカニズムの解析が促進される。 北京における砂塵の発生源が明らかになり、生態環境保護等の対策へ科学的根拠を与える。 特定の都市について大気中粒子状物質の現状及び発生源の解析が促進され、対策への技術的根拠を与える。 (2)環境管理水準の向上 ISO14000シリーズ認証登録機関のレベルが上がり、さらに多くの企業がISO14000シリーズによる環境管理を向上させる。 公害防止管理者制度の研究と試行を通じて企業環境管理の制度化への基礎が作られる。 全国の多くの地方環境保護局長が研修を受け能力を向上させる。 (3)ダイオキシン等新たな脅威となっている化学物質 ダイオキシンの分析法が標準化され、ゴミ焼却施設からのダイオキシンの実態が把握できる。 環境ホルモンの分析法が標準化され、環境中の環境ホルモンの実態が把握できる。 (4)西部大開発地域の環境保護 西部地域の多くの環境保護関係者が研修を受け能力を向上させる。 西部地域に合った環境管理政策が提言される。 西部地域全体の生態環境の現状が把握でき、政策決定等に活用される。 (5)その他「ト」計画の重要課題の解決が促進される。 2. 各課題解決への取組にあたり、地方との連携をとり、その連携等を通じて成果が地方に普及される。 3. センターを通じて日中間の環境協力の円滑な推進に対する支援が行われることにより、日中間の環境協力が円滑に進む。	左記(1)の指標: 酸性雨・砂塵嵐・粒子状物質のサンプリングや分析技術の普及の度合いと拡がり。 酸性雨・砂塵嵐・粒子状物質の対策にかかわる国の政策・計画に反映された提言の状況。  左記(2)の指標: 新たにISO14000認証を得た企業数、認証機構数、認証人員数。 公害防止管理者制度を履行した企業数。 プロジェクトを通じての研修を受けた地方環境保護局長の人数。  左記(3)の指標: ダイオキシンや環境ホルモンのモニタリング技術の普及の度合いと拡がり。 有害廃棄物規制のための法規・基準等に反映された提言の状況。  左記(4)の指標: 研修を受けた西部地域の環境保護関係者の人数。 研修講師と受講者による研修プログラムに対する総合評価。 西部大開発における環境保護行動計画に反映された提言の状況。 生態環境データベースの構築と西部生態保護ウェブサイトの閲覧数。  活動の対象となった重要課題の数と中国国内での位置付け	・センターの各活動の実績報告書 ・研究発表論文等 ・国家環境保護総局へのヒアリング ・地方環境保護局へのヒアリング ・新聞報道等 ・研修報告書、研修受講者の評価  ・選択した課題の重要性や経緯のわかる資料 (国家第十次五カ年計画や国家環境保護総局の指示・命令等)  ・センターの各活動の実績報告書 ・出版物や報告書・教材等 ・研修報告書、研修受講者の評価	センターに重要課題解決の指導的役割が与えられる。  センターに日本と中国との環境協力実施の重要な担当機関としての役割が与えられる。
(活動) 1 環境保全上の重要課題の解決策の提言と地方への普及 1 広域的な拡がりを持つ大気汚染問題への対応(領域1) 1-1 酸性雨観測における精度管理・発生源解析等 1-2 砂塵(砂塵嵐)の発生源解析・北京への影響の解析等 1-3 粒子状物質の元素・組成分析による発生源解析等 2 環境管理水準の向上のための対応(領域2) 2-1 ISO14000の推進策の策定や推進のための研修等 2-2 公害防止管理者制度の試行と中国に合った制度作りなどの環境管理政策提言 2-3 地方環境保護局長等に対する研修 3 ダイオキシン等新たな脅威となっている化学物質への対応(領域3) 3-1 ダイオキシン分析法の標準化と環境実態調査等 3-2 環境ホルモン分析法の標準化と環境実態調査等 4 西部大開発地域の環境保護への対応(領域4) 4-1 西部地域の環境保護関係者等に対する研修等 4-2 西部地域の特性を踏まえた環境管理政策の調査研究・提言 4-3 西部地域の生態環境のデータベース構築	(*活動の具体的内容は合同調整委員会において決定する。また、日中双方で合意した領域については新たに設定できることとする。)  II センターを通じて日中間の環境協力の円滑な推進に対する支援 1 ODA事業 1-1 技術協力(個別専門家、個別特設研修、現地国内研修、第三国研修、開発調査等) 1-2 センターを窓口または供与対象として実施される無償資金協力 1-3 センターを窓口として実施される有償資金協力 2 その他 2-1 日本からセンターに委託される各種調査・セミナー等 2-2 パートナーとして実施される日本の各種団体との共同研究等 2-3 その他センターと日本の民間団体・地方自治体との交流等	(投入)  (中国側) センター職員 定員220名 センター施設 センター運営費:施設・機材維持管理費、人件費、研究費 (日本側) 長期専門家 6名程度 短期専門家 8-10名程度/年 研修員受入 3-5名程度/年	(前提条件) センターが重要課題に取り組む人的・財政的基盤が確立される。 センターの重要課題の取組みにあたり、地方や他の研究機関等との協力が得られる。 日本の関係機関が中国との環境協力を実施する。

日中友好環境保全センタープロジェクト・フェーズⅢの協力領域・課題の見直し経過

<2002年1月25日 RD合意>

<2002年7月1日 合同調整委員会協議合意>

<2003年4月21日 合同調整委員会協議合意>

<2003年8月1日 2003年度計画見直し合意>

<2004年度計画案>

- 1 環境保全上の重要課題の解決策の提言と地方への普及
- 第1領域:広域的な協力を持つ大気汚染問題への対応(領域1)
- 1-1 居住汚染源における汚染管理・発生源解析等
  - 1-2 黄砂(砂塵埃)の発生源解析・北京への影響の解析等
  - 1-3 粒子状物質の元素・組成分析による発生源解析等

- 2 環境管理水準の向上のための対応(領域2)
- 2-1 ISM400の推進策の実定や推進のための研修等
  - 2-2 公害防止管理者制度の移行と中国に合った制度作りなどの環境管理政策提言
  - 2-3 地方環境保護局長等に対する研修

- 3 ダイオキシン等新たな脅威となっている化学物質への対応(領域3)
- 3-1 ダイオキシン等分析法の標準化、ごみ焼却施設における汚染調査等
  - 3-2 環境ホモロン分析法の標準化と環境モニタリング等
  - 3-3 市内環境汚染調査

- 4 西部大開発地域の環境保護への対応(領域4)
- 4-1 西部地域の環境保護関係者等に対する研修等
  - 4-2 西部地域の特性を踏まえた環境管理政策の調査研究・提言
  - 4-3 西部地域の生態環境のデータベース構築

- 1 環境保全上の重要課題の解決策の提言と地方への普及
- 第1領域:広域的な協力を持つ大気汚染問題への対応(領域1)
- 1-1 居住汚染源における汚染管理・発生源解析等
  - 1-2 黄砂(砂塵埃)の発生源解析・北京への影響の解析等
  - 1-3 粒子状物質の元素・組成分析による発生源解析等
  - 1-4 デューセル車の粒子状物質(排ガス)の発生源(DFP)発生技術に関する研究

- 2 環境管理水準の向上のための対応(領域2)
- 2-1 ISM400の推進策の実定や推進のための研修等
  - 2-2 公害防止管理者制度の移行と中国に合った制度作りなどの環境管理政策提言
  - 2-3 地方環境保護局長等に対する研修
  - 2-4 有機食品認証施設構築

- 3 ダイオキシン等新たな脅威となっている化学物質への対応(領域3)
- 3-1 ダイオキシン等分析法の標準化、ごみ焼却施設における汚染調査等
  - 3-2 環境ホモロン分析法の標準化と環境モニタリング等
  - 3-3 市内環境汚染調査

- 4 西部大開発地域の環境保護への対応(領域4)
- 4-1 西部地域の環境保護関係者等に対する研修等
  - 4-2 西部環境保護広域教育の能力建設-情報技術研修計画
  - 4-3 西部地域の特性を踏まえた環境管理政策の調査研究・提言
  - 4-4 西部地域の生態環境のデータベース構築

- A「環境保全上の重要課題の解決策の提言と地方への普及」
- 第1領域:広域的な協力を持つ大気汚染問題への対応
- (1) 居住汚染源の削減
  - (2) 黄砂・黄砂の影響研究
  - (3) 大気中の粒子状物質問題に関する研究

- 第2領域:環境管理水準向上のための対応
- (1) ISM400推進
  - (2) 公害防止管理者制度
  - (3) 中国環境保護

- 第3領域:ダイオキシン等新たな脅威となっている化学物質への対応
- (1) ダイオキシン
  - (2) PCB
  - (3) 市内環境汚染

- 第4領域:西部大開発地域への環境保護への対応
- (1) 地方環境局長研修
  - (2) 環境管理政策
  - (3) 生態情報システム

- B「センターを通じた日中間の環境協力の円滑な推進に対する支援」
- (1) ODA事業
    - 国特 公害防止管理者制度
  - (2) 二国研修 酸性雨、「情報ネットワーク」
  - (3) 三國研修 アジア地域環境保護能力向上、
    - 国調 黄砂大気汚染、太湖 支援等
    - 国調 情報100都市ネットワーク
    - 環境資金連携専門家

- (2) その他
- 日中環境交流:民間、自治体など

- 第1領域:広域的な協力を持つ大気汚染問題への対応
- (1) 居住汚染源の削減
  - (2) 黄砂・黄砂の影響研究
  - (3) 大気中の粒子状物質問題に関する研究

- 第2領域:環境管理水準向上のための対応
- (1) ISM400推進
  - (2) 公害防止管理者制度
  - (3) 中国環境保護
  - (4) 西部生態環境保護に関する能力建設

- 第3領域:ダイオキシン等新たな脅威となっている化学物質への対応
- (1) ダイオキシン
  - (2) PCB
  - (3) 市内環境汚染

- 第4領域:水平・窓口協力の課題
- (1) ODA事業
    - 国特 公害防止管理者制度
  - (2) 二国研修 酸性雨、「情報ネットワーク」
  - (3) 三國研修 アジア地域環境保護能力向上、
    - 国調 黄砂大気汚染、太湖 支援等
    - 国調 情報100都市ネットワーク
    - 環境資金連携専門家

- (2) その他
- 日中環境交流:民間、自治体など

政策・制度支援領域

- (1) 中国の環境保護政策の調査・分析と提言
- (2) 環境資金連携の推進
- (3) 中国環境保護局長等に対する研修
- (4) 中国環境保護局長等に対する研修

技術研修支援領域

- (1) 中国環境保護局長等に対する研修
- (2) 中国環境保護局長等に対する研修
- (3) 中国環境保護局長等に対する研修
- (4) 中国環境保護局長等に対する研修

水平・窓口協力とセンター間協力支援領域

- (1) ODA事業
- (2) 二国研修
- (3) 三國研修
- (4) その他

(注1) 7月時点で検討課題となったが、協議の結果、課題として取り上げないこととなった。  
 (注2) 日本の専門員による研修会(9月)の結果、課題として取り上げないこととなった。  
 (注3) 2002年度を以て終了

(注4) 本計画(1-7)は、この見直し、及びセンターの計画(注4)支援強化(注5)計画の存在  
 (注5) 2003年度を以て終了

プロジェクト要約	指標	指標測定方法・指標データ入手手段	重要な評価条件
<p>(上位目標)</p> <p>国家第十次五カ年計画に掲げられた環境分野の計画達成にセンターが貢献する。</p>	<p>センターの活動成果の国家第十次五カ年計画推進への反映状況</p>	<p>・国家環境保護総局へのヒアリング ・中国環境年報等 ・新聞報道等</p>	<p>中国において環境対策が国の重要課題として取組まれる。</p>
<p>(プロジェクト目標)</p> <p>センターが中国の環境保全上の重要課題の解決に指導的な役割を担い、また、その成果を中国国内に展開することにより中国各地方の環境問題の改善に寄与する。</p>	<p>活動成果の概要・政策・制度への反映状況</p> <p>活動成果の地方での貢献の状況</p>	<p>・センターの年報等報告書 ・中国環境年報等 ・国家環境保護総局へのヒアリング ・地方環境保護局等へのヒアリング ・新聞報道等</p> <p>・センターの年報等報告書 ・地方環境保護局へのヒアリング</p>	<p>センターが重要な課題と連携協力し、重要課題に取り組む国の機関として位置づけられる。</p>
<p>(成果)</p>			
<p>I. 重点協力(中国の環境保全上の重要課題に対する協力)</p> <p>1. 政策・制度支援領域</p> <p>(1) 循環型経済(即環境社会形成)が推進される</p> <p>1) センターの循環型経済に関する研究能力が向上する</p> <p>2) 循環型経済を推進するSEPAをはじめとした関係機関の循環型経済政策・制度等立案・執行能力が向上する</p> <p>(2) 企業環境保護監督員制度が推進される</p> <p>1) 立法化に向けた課題と対応方法が明確になる。</p> <p>2) 執行都市環境保護局及び執行企業監督員等の環境管理能力が向上する。</p> <p>(3) 中国に存在した環境保護基本法の枠組みが示される</p> <p>(4) SEPAの環境影響評価法実施細則作成にセンターを始めとする機関が貢献する</p> <p>(5) 中南部地域生態環境保護政策の立案に向け、現地情報提供システムが利用可能な状態になる</p> <p>(6) 環境モデル都市構想が推進される</p>	<p>1. 重点協力(中国の環境保全上の重要課題に対する協力)</p> <p>1. 政策・制度支援領域</p> <p>(1) 1105年度末までに3種類の報告書がSEPA等循環型経済を推進する機関へ提出される</p> <p>2) 関係部門の研修参加者が循環型経済への認識を深める</p> <p>(2) 1) 立法化に向けた課題の分析結果が報告書としてセンターよりSEPAに提出される。</p> <p>2) 研修参加者が企業環境保護監督員制度への認識を深める</p> <p>(3) 基本法の枠組み分析に係る報告書がSEPAへ提出される。</p> <p>(4) 実施細則に関する提案がSEPAに対して行われる。</p> <p>(5) 現地情報提供システム等の年度末までに構築される</p> <p>(6) 1) 環境モデル都市構想中間評価のための基礎資料が執行中の関係機関に提出される</p> <p>2) モデル都市で展開される日中環境協力事業等が円滑に実施される。</p>	<p>1. 重点協力(中国の環境保全上の重要課題に対する協力)</p> <p>1. 政策・制度支援領域</p> <p>(1) 1) 中国と日本の循環型経済の発展に関する比較研究報告書 2) 中国の循環型経済における物質流分析基礎報告書 3) 中国の循環型経済の発展をめぐる立法方式と政策研究報告書と、SEPAへのヒアリング</p> <p>2) 研修実施報告書、参加者へのアンケート</p> <p>(2) 1) SEPAへのヒアリング、センターの活動年報、専門家報告書</p> <p>2) 訪日研修実施報告書、参加者へのアンケート</p> <p>(3) 提案書、専門家報告書</p> <p>(4) 実施細則に関する提案書、SEPAへのヒアリング</p> <p>(5) システム製、関係専門家等へのヒアリング</p> <p>(6) 中間評価のための基礎資料</p>	
<p>2. 技術移転支援領域</p> <p>(1) ダイオキシン分析技術移転が進展し</p> <p>1) センターのダイオキシン分析実験室での分析が可能になる。</p> <p>2) センター等のダイオキシン分析技術が向上する。</p> <p>3) 研修参加者のダイオキシン分析能力が向上する。</p> <p>(2) POPs分析技術移転が進展し</p> <p>1) センターのPOPs分析技術が向上する。</p> <p>2) 全国のPOPs分析能力が把握される。</p> <p>3) 中国の幾つかの地域における環境中のPOPs汚染の状況が明らかになる。</p> <p>4) 研修参加者のPOPs分析能力が向上する。</p> <p>(3) 黄砂を含む都市大気中粒子状物質発生源の解析研究等が推進される</p> <p>1) センターの粒子状物質の採取、分析、発生源解析技術が向上する。</p> <p>2) 中国の幾つかの地域において実際に発生源解析が行われ、発生源が初次的に解明される。</p> <p>3) 黄砂の発生源解析が推進される。</p> <p>4) 研修参加者の都市大気中粒子状物質分析能力が向上する。</p> <p>5) 都市大気中粒子状物質の分析精度管理が向上する。</p> <p>6) 黄砂問題に関する他の協力スキームとの連携が促進される。</p> <p>(4) 固体廃棄物の再資源化研究が推進される</p>	<p>2. 技術移転支援領域</p> <p>(1) 1) 実験室稼働後の分析データが提出される。</p> <p>2) センター職員が分析技術を得得する。</p> <p>3) 研修参加者がダイオキシン分析技術の認識を深める。</p> <p>(2) 1) センター職員が分析技術を習得する。</p> <p>2) 精度管理報告書が作成される。</p> <p>3) 環境中のPOPs汚染に関する報告書が作成される。</p> <p>4) 研修参加者がPOPs分析技術の認識を深める。</p> <p>(3) 1) センターが粒子状物質発生源解析に必要な知見を備える。</p> <p>2) 1) 発生源解析に関する研究報告書が作成される。</p> <p>4) 研修参加者が都市大気中粒子状物質分析技術の認識を深める</p> <p>5) 一部の都市大気中粒子状物質の標準物質が作成される。</p> <p>6) 黄砂問題に関する他の協力スキームとの連携が実施される。</p> <p>(4) 固体廃棄物の再資源化に関する研究報告書が作成される。</p>	<p>2. 技術移転支援領域</p> <p>(1) 1) 現地検分、分析データ</p> <p>2) 訪日研修実施報告書</p> <p>3) 研修実施報告書、参加者へのアンケート</p> <p>(2) 1) 訪日研修実施報告書</p> <p>2) 精度管理報告書</p> <p>3) 調査報告書、センター活動年報等</p> <p>4) 研修実施報告書、参加者へのアンケート</p> <p>(3) 1) 専門家によるヒアリング</p> <p>2) 3) 研究報告書</p> <p>4) 研修実施報告書、参加者へのアンケート</p> <p>5) 作成された標準物質、センター年報</p> <p>6) 関係者等へのヒアリング</p> <p>4) 研究報告書</p>	
<p>II. 一般協力</p> <p>1. フェーズIII前期重点協力フォローアップ</p> <p>(1) 中国の酸性雨モニタリング能力が引き継ぎ向上する</p> <p>(2) 東アジア酸性雨モニタリングネットワークとの連携が促進される。</p> <p>(3) 地方の環境保護局指導者の環境対応能力が向上する</p> <p>2. 他のJICAスキームによる協力との連携・支援</p> <p>(1) 現地専門家研修「酸性雨調査及び酸性雨対策技術研修」、中国環境保護局環境局管理司管理司副局長及び環境局管理司副局長が指導する「酸性雨調査技術研修」が円滑に実施されるとともに、本プロジェクトと連携して効果的に実施される。</p> <p>(2) 第三国研修アジア地域環境保護能力向上が円滑に実施される</p> <p>(3) 環境分野における資金協力連携促進専門家との連携が行われ、本プロジェクト及び関係機関の業務が効果的に実施される</p> <p>3. その他の一般協力</p> <p>(1) 協力した課題が円滑に実施される。</p> <p>(2) 日中友好環境保全センターが日中環境協力の拠点または窓口として名が高まる。</p>	<p>II. 一般協力</p> <p>1. フェーズIII前期重点協力フォローアップ</p> <p>(1) 精度管理報告書、研修実施報告書</p> <p>(2) 関係者等へのヒアリング</p> <p>(3) 研修実施報告書、参加者へのアンケート</p> <p>2. 他のJICAスキームによる協力との連携・支援</p> <p>関係者等へのヒアリング</p> <p>3. その他の一般協力</p>	<p>II. 一般協力</p> <p>1. フェーズIII前期重点協力フォローアップ</p> <p>(1) 精度管理報告書、研修実施報告書</p> <p>(2) 関係者等へのヒアリング</p> <p>(3) 研修実施報告書、参加者へのアンケート</p> <p>2. 他のJICAスキームによる協力との連携・支援</p> <p>関係者等へのヒアリング</p> <p>3. その他の一般協力</p> <p>関係者等へのヒアリング</p>	
<p>(活動)</p> <p>別添5-2参照</p>	<p>(投入)</p> <p>1. 中国側) センター職員 定員230名 センター施設 センター運営費: 施設・機材維持管理費、人件費、研究費</p> <p>2. (日本側) 長期専門家 名程度 短期専門家 名程度/年 研修員受入 名程度/年</p>		<p>(効果期待)</p> <p>センターが重要課題に取り組む人的・財政的基盤が確立される</p> <p>センターの重要課題の取組みにあたり、地方や他の研究機関等との協力が得られる</p> <p>日本の関係機関が中国での環境協力を実施する。</p>

\*備考 全防研R2002年1月25日に発行



日中友好環境保全センタープロジェクトフェーズ3  
2002年度第1回合同調整委員会

日時：2002年7月1日（月） 14:00～20:30

場所：日中友好環境保全センター518会議室

出席者：（中国側）張坤主任、程子峰副主任、陳燕平副主任、各部の部長、国際合作処、  
各領域の長、各課題の責任者  
国家環境保護総局代表、科学技術部代表  
（日本側）リーダー、調整員、全専門家、JICA から派遣される調査団員、  
JICA 中国事務所代表、日本大使館（オブザーバー）

プログラム案：

- 14:00 開会挨拶（司会：国際合作処 趙峰処長）  
合同調整委員会の主旨確認（議長：張坤主任）  
中国側領域長と各課題のカウンターパートの発表、出席者の紹介（張坤主任）
- 14:15 フェーズ3の特徴、留意事項（千原リーダー）  
日本側領域長と国内支援委員メンバー、出席者の紹介（千原リーダー）
- 14:30 各領域ごと4年間計画と当年度計画を報告  
（日本側領域長が報告、中国側領域長が補足）  
1領域30分×4領域  
※ 新たな課題の取り扱いについて（各領域長）
- 16:30 2002年度の活動計画の概況（鈴木調整員）
- 16:40 質疑応答・意見交換
- 17:00 JICA運営指導調査団団長からの挨拶（柳下団長）
- 17:20 国家環境保護総局挨拶
- 17:30 科学技術部挨拶
- 17:40 日本大使館挨拶
- 17:50 閉会宣言（張坤主任）
- 18:30 署名式、懇親会（場所：金馬江南）
- 20:30 終了

会議資料：

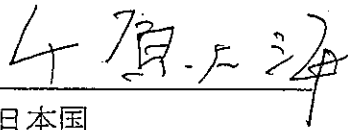
- (1) リーダー発言資料
- (2) 国内支援委員会構成(案)
- (3) PO（プロジェクト暫定実施計画）
- (4) 2002年度の活動計画
- (5) メンバーリスト
- (6) 各課題の活動詳細表（4年間計画、当年度計画）

日中友好環境保全センタープロジェクトフェーズ3  
2002年度第1回合同調整委員会  
協議議事録

日中友好環境保全センタープロジェクトフェーズ3 (以下「プロジェクト」という。) に関し、2002年1月25日に日中双方で合意した討議議事録 (R/D) に基づき、プロジェクトの実施にかかる必要事項を決定、承認、または確認するために、2002年7月1日に中国北京市において2002年度第1回合同調整委員会を開催した。

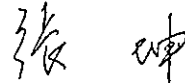
協議によって、協力期間中のプロジェクト活動計画と当該年度の活動計画等について確認を行い、付属文書のとおり合意した。なお、本協議にはフェーズ3日本国内支援委員長を団長とする運営指導調査団が国際協力事業団本部より派遣された。

当協議議事録は、等しく正文である日本語および中国語による本書それぞれ2通を作成する。



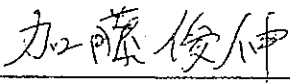
日本国  
国際協力事業団  
日中友好環境保全センタープロジェクト  
フェーズ3

チーフアドバイザー 千原 大海

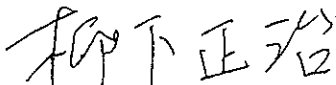


中華人民共和国  
国家環境保護総局  
中日友好環境保護中心

主任 張 坤



日本国  
国際協力事業団  
中華人民共和国事務所  
次長 加藤 俊伸



日本国  
国際協力事業団  
日中友好環境保全センタープロジェクト  
フェーズ3 運営指導調査団  
団長 柳下 正治

## 付属文書

### 1 協力期間中のプロジェクト活動計画

協力期間中の活動計画について日中双方で協議を行い、別添1の「PO（プロジェクト暫定実施計画）」のとおりとりまとめ確認した。

### 2 当該年度の活動計画

今年度の活動計画を別添2「2002年度の活動計画」および別添4「活動詳細表」のとおりとりまとめ、日中双方はこれを踏まえて実行計画を作ることに合意した。

なお、中国側よりR/Dに記されなかった次の2つの新しい課題が提案された。

(1) 領域3：中国室内環境汚染研究

(2) 領域2：有機食品国家認証の能力構築

これらについては、日中双方で新たに設定された領域長によりさらに検討することとした。

### 3 各協力活動に対応する中国側カウンターパートと日本側担当専門家

各領域および各協力活動に対応する中国側カウンターパートと日本側担当専門家を別添3「メンバーリスト」のとおり確認した。

### 4 その他重要事項

日中双方は、複数の課題を横断的に調整するために領域別に領域長を設定し、日本側の投入を領域別に行うことを確認した。

以上

## PO (プロジェクト暫定実施計画)

国名: 中華人民共和国 プロジェクト名: 日中友好環境保全センタープロジェクト フェーズ3

投入	年次 年度	1年目 2002年度	2年目 2003年度	3年目 2004年度	4年目 2005年度	備考	
1. 日本人専門家の派遣							
1) 長期専門家	チーフアドバイザー 領域1と領域4 領域2 領域3 業務調整員	←			→	もう1名長期専門家の枠あり。 ただし、進捗により柔軟に対応する。	
2) 短期専門家	広域大気	10人	10人	10人	10人		
	酸性雨 黄砂・砂塵暴 粒子状物質 ディーゼル排ガス	4人 -	4人 -	3人 -	3人 -		派遣期間は 1~2週間程度。 2年度目以降の計画は、 別途合同調整委員会で 決定する。  (一)は追加措置が 可能であれば実施。
	環境管理	2人 -	3人 -	3人 -	2人 -		
	有害化学物質	2人 -	2人 -	2人 -	3人 -		
	西部環境保護	2人 -	1人 -	2人 -	2人 -		
2. 訪日研修員		3人	5人	5人	5人	研修期間は 1~3ヶ月程度。 2年度目以降の計画は、 別途合同調整委員会で 決定する。	
	広域大気	0人	1人	2人	1人		
	酸性雨 黄砂・砂塵暴 粒子状物質 ディーゼル排ガス						

環境管理	ISO14000 公害防止管理者 地方環保局長研修 有機食品 ※	1人 (国別特設で8人)	1人 (国別特設で8人)	0人 (国別特設で8人)	1人 (国別特設で8人)	
有害化学物質	ダイオキシン 環境ホルモン 室内環境汚染 ※	1人	1人	1人	2人	
西部環境保護	西部局長研修 西部撮影技術 西部環境保護政策 西部生態環境情報	1人	2人	2人	1人	
3. 機材供与	広域大気 酸性雨 黄砂・砂塵暴 粒子状物質 ディーゼル排ガス		—酸性雨データの地図表示ソフト —気象観測器、ライダー —高流量サンプラー			2年度目以降の計画は、別途合同調整委員会で決定する。
環境管理	ISO14000 公害防止管理者 地方環保局長研修 有機食品 ※		—サーバー等(現地調達) —プロジェクター等(現地調達)			
有害化学物質	ダイオキシン 環境ホルモン 室内環境汚染 ※		—分析用器具等 —分析機器等 —サンプリング機器等			
西部環境保護	西部局長研修 西部撮影技術 西部環境保護政策 西部生態環境情報		—事務機器等(現地調達)			
4. 調査団		—運営指導	—中間評価	—運営指導	—終了時評価	
5. 合同調整委員会		—	—	—	—	左記以外に必要な — 応じて開催。

※は新たな課題

領域名 (略称)	課題名 (略称)	短期専門家	訪日研修員	2002年度の活動内容				
				研究会、研修、意見交換など	現地調査	印刷・出版など	物品購入(供与機材除く)	その他の活動
広域大気	酸性雨	4人	0人	酸性雨モニタリング技術研修(50人× 国レベルと省単位の2回)	西部地域への専門家出張指導	EANET中国ネット報告	QA/QC用標準物質	地方観測駅のQA/QC
	黄砂・砂塵暴			内蒙古での砂塵暴セミナー(20人×1 回)	機器の設置、サンプリング、回収	報告書	標準物質	
	粒状物質			検討会(10人×1回)	地方都市でのサンプリング		消耗品	(日本での学会参加)
	ディーゼル排ガス							
環境管理	ISO14000	2人	1人	短期専門家セミナー(5人×1回)		審査員テキスト		
	公害防止管理者			汚染防止施設の操作技術(5人×1回)	貴陽市に対する調査研究、重慶市の 試行に関するヒアリング	操作技師用テキスト		国家環境保護総局へのヒアリング
	地方環保局長			地方環境保護局長研修(30人×3回) ただし、研修経費は世界銀行と中国側		講師資料		講師派遣
	有機食品 ※			北京在住の専門家による日本の有機 食品についての紹介(20人×1回)				ソフト開発
有害物質	ダイオキシン	2人	1人	ダイオキシン測定技術研修(10人×1 回)	(北京周辺の実態調査)	報告書	消耗品	国際セミナー参加、発生源情報収集
	環境ホルモン			中日セミナー(30人×1回)		分析方法、テキスト	標準物質	QA/QC
	室内汚染 ※			技術研修コース(30人×1回)	(基礎調査)	調査報告書、マニュアル	標準物質	実験設備の整備
西部環境保護	西部能力向上	2人	1人	西部環保局長研修(30人×1回)		教材		講師派遣
	西部映像研修			撮影技術研修(20人×1回)				
	西部環境政策				寧夏自治区での現地調査			
	西部生態情報							システム開発、データ画像作成、 ユーザ分析
合計		10人	3人	2002年度活動経費合計: 約120万円				

メンバーリスト

(敬称略)

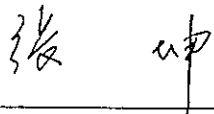
領域名(略称)	領域長			課題名(略称)	メンバー						日本国内支援委員会
	中国側	日本側			中国側			日本側			
		主担当	副担当		チーフ	主なメンバー	協力機関	主担当	副担当		
広域大気	程子峰	山下俊郎	向井博之	酸性雨	王瑞斌	席俊清、鄭皓皓、齊文啓、吳忠祥		山下俊郎	向井博之	西川雅高	
				黄砂・砂塵暴	董旭輝	全浩、陳岩、唐莉、王雁鵬、張TING、狄一安、情報中心、政経中心、標様所	環科院、総站、西北地域の各環境保護局	山下俊郎	向井博之		
				粒子状物質	劉咸徳	分測中心	総站、環科院	山下俊郎	向井博之		
				ディーゼル排ガス	王学中	周澤興、李凱、岑運華、朱玲		山下俊郎	向井博之		
環境管理	陳燕平	加藤義重	山下俊郎	ISO14000	張小丹	李喜俊、陳春瑜、孫海容、李燕、閻濤、王孝霞、篩兵		加藤義重	向井博之	田森行男	
				公害防止管理者	周新	高彤、田春秀		加藤義重	山下俊郎		
				地方環境保護局長	焦志延	宋旭紅、牛玲娟	国家環境保護総局人事司、地方環境保護局人事処	加藤義重	山下俊郎、鈴木啓中		
				有機食品 ※	張小丹	孫海容、周文権、王謙、李燕、王子楊、楊賤濤、蔡宇		加藤義重	向井博之		
有害物質	歐陽訥	向井博之	山下俊郎	ダイオキシン	田洪海		北京大学地質学部、清華大学環境学部、固体廃棄物専門委員会、中国科学院光学精密機械研究所	向井博之	山下俊郎	伊藤裕康	
				環境ホルモン	黄業茹	周麗、狄一安、張穎、施鈞慧、丁中元	総站、地方観測站	向井博之	加藤義重		
				室内汚染 ※	欧陽訥	黄業茹、李玉武、董旭輝、狄一安、張穎、周麗、齊耀、張TING、標様所、宣教中心	中国室内裝飾協会	向井博之	山下俊郎		
西部環境保護	張坤	山下俊郎	加藤義重	西部局長研修	焦志延	宋旭紅、牛玲娟	国家環境保護総局人事司、西部地方環境保護局人事処	山下俊郎	加藤義重	今井千郎	
				西部映像研修	羅毅			山下俊郎	加藤義重		
				西部環境政策	夏光	裴曉菲		加藤義重	山下俊郎		
				西部生態情報	王橋	魏斌、王文傑、鄭丙耀、劉玉平、張波、申文明、李順、杜世宏、歴青、吳伝慶		向井博之	山下俊郎		

中日友好环境保护中心项目第三阶段技术合作  
2002年度第一次联合协调委员会  
协议会谈纪要

中日友好环境保护中心项目第三阶段技术合作（以下简称“项目”），以2002年1月25日中日双方协商后的会谈纪要(R/D)为基础，为了决定、批准或确认有关项目实施的必要事项，于2002年7月1日在中国北京市召开了2002年度第一次联合协调委员会。

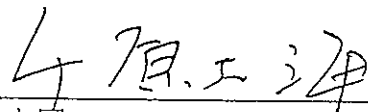
通过协议，双方确认了合作期间项目活动计划及本年度活动计划，并同意了附件中所记载的内容。由国际协力事业团总部派遣、以项目第三阶段技术合作日本国内支援委员长为首的运行指导调查团参加了本次联合协调委员会。

本协议会谈纪要分别制作了中、日文各2份正式文件。

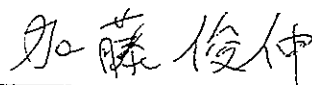


中华人民共和国  
国家环境保护总局  
中日友好环境保护中心

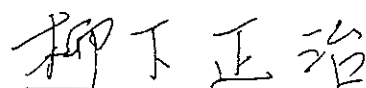
主任 张 坤



日本国  
日本国际协力事业团  
中日友好环境保护中心项目  
第三阶段技术合作  
首席顾问 千原 大海



日本国  
日本国际协力事业团  
驻中华人民共和国事务所  
副所长 加藤 俊伸



日本国  
日本国际协力事业团  
中日友好环境保护中心项目  
第三阶段技术合作运行指导调查团  
团长 柳下 正治



## 附 件

### 1 合作期项目活动计划

中日双方就合作期间项目活动计划进行了协商，在另附 1 “PO (项目暂定实施计划)” 中予以了总结和确认。

### 2 本年度活动计划

另附 2 “2002 年度活动计划” 和另附 4 “活动详细表” 汇总了本年度活动计划，中日双方同意以此为依据制定实行计划。

另外，中方提出了 R/D 中没有记载的 2 个新课题。

(1) 领域 3: 中国室内环境污染研究

(2) 领域 2: 建立有机食品国家认证能力

中日双方同意由中日双方新设定的领域负责人就上述问题进一步予以研究。

### 3 各个合作活动中方对等人员和日方负责专家

另附 3 “成员名单” 确认了各领域及各合作活动的中方对等人员和日方负责专家。

### 4 其他重要事项

中日双方为了对一系列课题进行横贯性调整而设定了不同领域的领域负责人，确认日方投入按不同领域实施。

PO (项目暂定实施计划)

国家名称: 中华人民共和国 项目名称: 中日友好环境保护中心 第三阶段合作项目

投入	年份 年度	第一年 2002 年度	第二年 2003 年度	第三年 2004 年度	第四年 2005 年度	备注
I 派遣日本专家						
1) 长期专家	首席顾问	←				还有一名长期专家的名额。但是, 需要根据进展状况灵活掌握。
	第一、四领域	←				
	第二领域	←				
	第三领域	←				
	业务调整员	←				
2) 短期专家						
广泛区域大气		10 人	10 人	10 人	10 人	派遣时间为 1~2 周左右。 第二年以后的计划, 通过另外的合同调整委员会来决定。
环境管理	酸雨	4 人 —	4 人 —	3 人 —	3 人 —	
	黄砂沙尘暴	— —	— —	—	—	
	大气颗粒物	—	—	—	—	
有害化学物质	柴油发动机尾气	—	—	—	—	
	ISO14000	2 人 —	3 人 —	3 人 —	2 人 —	.(一) 为有可能实施的追加措施。
	公害防止管理员	—	—	—	—	
地方环保局长培训	—	—	—	—		
访日进修生	有机食品※	—	(一)	—	—	
	二恶英	2 人 —	2 人 —	2 人 —	3 人 —	
	环境荷尔蒙	—	—	—	—	
西部环境保护	室内空气污染※	(一)	—	(一)	(一)	
	西部环保局长培训	2 人 —	1 人 —	2 人 —	2 人 —	
	西部影视技术	—	(一)	—	(一)	
	西部环境保护政策	—	—	—	—	
广泛区域大气	西部生态环境信息	—	—	—	—	
	访日进修生	3 人	5 人	5 人	5 人	培训时间为 1~3 个月。 第二年以后的计划, 通过另外的合同调整委员会来决定。
	酸雨	0 人	1 人	2 人	1 人	
	黄砂沙尘暴	—	—	—	—	
大气颗粒物	—	—	—	—		
	柴油发动机尾气	—	—	—	—	

环境管理	ISO14000 公害防止管理员 地方环保局长培训 有机食品	1人 — (国别特设8人)	1人 — (国别特设8人)	0人 — (国别特设8人)	1人 — (国别特设8人)	另附1(2/2)
有害化学物质	二恶英 环境荷尔蒙 室内环境污染※	1人 —	1人 —	1人 —	2人 —	
西部环境保护	西部局长培训 西部影视技术 西部环境保护政策 西部生态环境信息	1人 —	2人 —	2人 —	1人 —	
3 提供器材	广泛区域大气 酸雨 黄砂沙尘暴 大气颗粒物 柴油发动机尾气	—用地图表示酸雨数据的软件 —气象观测仪、激光雷达 —高流量采样器				
环境管理	ISO14000 公害防止管理员 地方环保局长培训 有机食品※	—服务器等(实地调研) —实物投影仪(实地调查)				
有害化学物质	二恶英 环境荷尔蒙 室内环境污染	—分析用工具等 —分析器材等 —采样器等				
西部环境保护	西部局长培训 西部影视技术 西部环境保护政策 西部生态环境信息	—办公器材等(中国国内购买)				
4 调查团		—运行指导	—中期评价	—运行指导	—终了评价	
5 合同调整委员会		—	—	—	—	除左边记述的事项以外 根据需要召开。

2002 年度活动计划

※ 为新课题

领域名称 (简称)	课题名称 (简称)	短期 专家	访日进 修生	2002 年度活动内容				
				研讨会、培训、交换意见等	实地调查	印刷·出版等	采购器材(提供 器材除外)	其他活动
广泛区域大 气	酸雨	4 人	0 人	酸雨监测技术培训(50 人×国家 级省级各 1 次)	专家出差对西部 地区进行指导	EANET 中国网 报告	QA/QC 用标准 物质	地方监测站 QA/QC
	黄砂沙尘暴			在内蒙古召开沙尘暴研讨会(20 人×1 次)	设置器材、采样、 回收	报告书	标准物质	
	大气颗粒物			研讨会(10 人×1 次)	在地方城市采样		易耗品	(在日本参加学 会)
	柴油发动机尾气							
环境管理	ISO14000	2 人	1 人	短期专家讲座(5 人×1 次)		审核员教材		
	公害防止管理员			污染防治设施操作技术(5 人×1 次)	听取贵阳的调研 和重庆的试点工 作汇报	操作技师教材		听取国家环保总 局意见
	地方环保局长培训			地方环保局长培训(30 人×3 次),但是,培训经费由世界银 行和中方负担。		讲师资料		派遣讲师
	有机食品※			由驻在北京的专家介绍日本的 有机食品(20 人×1 次)				开发软件
有害物质	二 恶英	2 人	1 人	二 恶英测定技术培训(10 人× 1 次)	(调查北京周边 地区实际状态)	报告书	易耗品	参加国际研讨 会,收集排放源 信息
	环境荷尔蒙			中日研讨会(30 人×1 次)		分析方法、教材	标准物质	QA/QC
	室内污染※			技术培训班(30 人×1 次)	(初步调查)	调查报告书、手 册	标准物质	配备实验设施
西部	提高西部能力	2 人	1 人	西部环保局长培训(30 人×1 次)		教材		派遣讲师
	西部影视培训			影视技术培训(20 人×1 次)				
	西部环境政策				宁夏回族自治区 实地调研			
	西部生态信息							开发系统、制作 数据图象、分析 用户
合计		10 人	3 人	2002 年度活动经费合计: 约 120 万元				

成員名單

(省略敬称)

領域名(略称)	領域負責人			課題名(略称)	成員					日本国内支援委員会
	中国側	日本側			負責人	中国側		日本側		
		主	副			主要成員	合作機構	主	副	
広域大気	程子峰	山下俊郎	向井博之	酸雨	王瑞斌	席俊清、鄭皓皓、齊文啓、吳忠祥		山下俊郎	向井博之	西川雅高
				黄砂・砂塵暴	董旭輝	全浩、陳岩、唐莉、王雁鵬、張TING、狄一安、情報中心、政経中心、標様所	環科院、総站、西北地域の各環境保護局	山下俊郎	向井博之	
				大気顆粒物	劉威德	分測中心	総站、環科院	山下俊郎	向井博之	
				柴油機動排気	王学中	周澤興、李凱、岑運華、朱玲		山下俊郎	向井博之	
環境管理	陳燕平	加藤義重	山下俊郎	ISO14000	張小丹	李喜俊、陳春瑜、孫海容、李燕、閻濤、王孝霞、薛兵		加藤義重	向井博之	田森行男
				公害防止管理者	周新	高彤、田春秀		加藤義重	山下俊郎	
				地方環境保護局長	焦志延	宋旭紅、牛玲娟	国家環境保護総局人事司、地方環境保護局人事処	加藤義重	山下俊郎、鈴木啓中	
				有機食品 ※	張小丹	孫海容、周文權、王謙、李燕、王子楊、楊賤濤、蔡宇		加藤義重	向井博之	
有害物質	歐陽訥	向井博之	山下俊郎	二惡英	田洪海		北京大学地質学部、清華大学環境学部、固体廃棄物専門委員会、中国科学院光学精密機械研究所	向井博之	山下俊郎	伊藤裕康
				環境激素	黄業茹	周麗、狄一安、張穎、施鈞慧、丁中元	総站、地方観測站	向井博之	加藤義重	
				室内汚染 ※	歐陽訥	黄業茹、李玉武、董旭輝、狄一安、張穎、周麗、齊耀、張TING、標様所、宣教中心	中国室内裝飾協会	向井博之	山下俊郎	
西部環境保護	張 坤	山下俊郎	加藤義重	西部局長培訓	焦志延	宋旭紅、牛玲娟	国家環境保護総局人事司、西部地方環境保護局人事処	山下俊郎	加藤義重	今井千郎
				西部影視培訓	羅 毅			山下俊郎	加藤義重	
				西部環境政策	夏 光	裴曉菲		加藤義重	山下俊郎	
				西部生態信息	王 橋	魏斌、王文傑、鄭丙耀、劉玉平、張波、申文明、李順、杜世宏、歷青、吳伝慶		向井博之	山下俊郎	